

金沢大学



入学者選抜に
関する要項

目次

人間社会学域の入学定員等の変更及び理工学域の改組について

1	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
2	募集人員	11
3	入学者選抜方法等	
1	一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試	12
2	推薦入試，帰国子女入試，国際バカロレア入試，アドミッション・オフィス入試（AO入試），私費外国人留学生入試	13
4	一般入試	
1	実施日程	14
2	出願資格	15
3	入学者選抜の実施教科・科目等	16
5	推薦入試	
1	推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）	26
2	推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）	28
6	帰国子女入試	
1	出願資格	47
2	入学者選抜方法等	47
3	出願期間	49
4	選抜期日	49
5	合格者発表	49
7	国際バカロレア入試	
1	募集人員	50
2	出願資格	50
3	入学者選抜方法等	51
4	出願期間	51
5	選抜期日	51
6	合格者発表	51
8	アドミッション・オフィス入試（AO入試）	
1	出願資格，選抜方法等	52
2	出願期間	53
3	選抜期日	53
4	合格者発表	53
5	その他	53
9	私費外国人留学生入試	
1	募集人員	54
2	出願資格	54
3	出願条件	54
4	入学者選抜方法等	54
5	出願期間	55
6	選抜期日	55
7	合格者発表	55
10	障がいのある者等の出願	
1	相談締切日	57
2	提出書類	57
3	相談先	57
11	学生募集要項の請求方法等	
1	学生募集要項の請求方法	57
2	学生募集要項の発表・配付予定時期	58
3	問い合わせ先	59
4	金沢大学所在地略図	60

人間社会学域の入学定員等の変更及び 理工学域の改組について

金沢大学は、以下のとおり、平成30年4月に人間社会学域の入学定員等の変更並びに理工学域の改組を行う予定です。これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果等によって確定するものであり、変更があり得ます。

平成30年度入学者選抜要項に掲載する募集人員、入学者選抜方法等はすべて予定です。

詳細については、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知（平成29年8月末頃）後に、学生募集要項でお知らせします。

《人間社会学域》

学際分野及び社会科学分野においてローカルな視点、グローバルな視点から課題探究・解決ができる人材が、より一層求められていることを踏まえ、以下の3学類について入学定員を変更します。

学 類	改組前	改組後
	入学定員	入学定員
経済学類	185名	135名（△50名）
地域創造学類	80名	90名（+10名）
国際学類	70名	85名（+15名）

《理工学域》

理学と工学の分野融合的な観点を基盤とした、新たな価値の創造や技術革新を通じて未来社会を牽引できる人材を養成するため、これまでの6学類体制を再編し、新たに7学類となります。

改組前		➔	改組後	
学 類	入学定員		学 類	入学定員
数物科学類	84名		数物科学類	84名
物質化学類	81名		物質化学類	81名
機械工学類	140名		機械工学類	100名
電子情報学類	108名		フロンティア工学類(仮称)	110名
環境デザイン学類	74名		電子情報通信学類(仮称)	80名
自然システム学類	102名		地球社会基盤学類(仮称)	100名
計	589名		生命理工学類(仮称)	59名
			計	614名(+25名)

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

《人間社会学域》

【人文学類】

人文学類では、人間をその行動、思想、歴史、文化、言語、文学といった多彩な観点から考察し深く学ぶことを通じて、人間性と社会性に富む教養と課題発見能力、社会的応用性を備えた専門的知識、的確な自己表現の能力、そして多面的視野と柔軟なコミュニケーション能力を持った人材の育成を目指しています。

求める人材

- ・人間の行動、思想、歴史、文化、言語、文学といった知的営みとその成果に対し深い関心を持ち、勤勉性と忍耐力に裏打ちされた学習意欲を有する人
- ・文献読解から実験、フィールドワークまでを含む人文諸学固有の方法論のあり方を学び、その成果を多様な現代社会の諸課題の解決に活かしたいという意欲を有する人
- ・広い視野を持ち、多様な価値観や伝統、異文化を積極的に理解しようとする態度を有する人
- ・高等学校等で学習する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語について総合的な基礎学力を有する人
- ・国語および英語をはじめとする外国語における文章の読解能力、論理的思考能力、そして的確な表現力を有する人

選抜の基本方針

■一般入試

センター試験を課して総合的な基礎知識を評価するとともに、人文学類の基本的科目である国語と外国語の能力（前期日程）、小論文課題による文章読解能力、論理的思考能力、表現力（後期日程）を評価します。

■帰国子女入試

国語と外国語の試験および面接により外国語能力・表現力・意欲等を重点的に評価します。

■私費外国人留学生入試

日本留学試験、TOEFL、国語の試験および面接により知識・表現力・意欲等を重点的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人文学類で学び、探求する事柄は、人間に関する様々な事象が対象となりますので、高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力を身につけておくことが望まれます。

【法学類】

国内外の社会状況が大きく変化している現代において、法と政治に関する基本的な理念や知識は、個々人が他者と共生していくために不可欠なものとなっています。法学類では、このような認識に基づき、法学・政治学を体系的に学ぶことを通じて、現代社会が抱える諸問題を発見し、将来的課題に取り組む能力を有した人材を養成することを目標としています。

求める人材（法学類共通）

- ・大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えている人
- ・国内外の社会問題に関心を持ち、よりよい社会の実現のために貢献したいと願っている人
- ・論理的思考や情報分析を通じて、また、過去の歴史的経緯をふまえて、社会現象の本質を探究したいという意欲のある人

求める人材（推薦入試）

- ・コミュニケーション能力（とくに、人の話を正確に理解し、自分の意見を論理的に述べる能力）が優れている人
- ・課題や仕事に率先して取り組む意欲や責任感のある人

選抜の基本方針

■一般入試

前期日程では、基礎学力に加えて、外国語と国語または数学の能力を評価します。後期日程では、基礎学力に加えて、小論文課題を通じて理解力・論理的思考力・表現力等を重視した評価を行います。

■推薦入試

基礎学力に加え、面接を通じて、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを正確に理解し自分の意見を論理的に述べるコミュニケーション能力があるか、自主的・主体的に課題に取り組む意欲はあるかなどを総合的に評価します。

■帰国子女入試

国語能力に加え、面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語能力及び英語能力に加え、日本語による面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

- ・高等学校で履修した様々な科目の内容について理解していること
- ・法律や裁判例の読解、政治的問題の把握、これらに基づく私見の提示・論述に必要な国語力を十分に修得していること
- ・社会的・国際的諸問題の本質を探究し、その解決を図るために必要な社会科目や外国語科目の学力を十分に修得していること

【経済学類】

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、高校の専門教育を主とする学

科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする推薦入試、および帰国子女入試・国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。

求める人材

- ・経済学・経営学に関する体系的知識を学び、現代社会の諸問題の分析と解決に挑みたい人
- ・国や地域社会の仕事に携わるために必要な専門的知識を身につけたい人
- ・国際的な社会経済の日々の出来事に鋭敏にアンテナを張り巡らせている人
- ・営利・非営利のビジネスに関心を持ち、将来これらのフィールドで活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、外国語・数学の能力を重視します。

■推薦入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、平素の学習活動や大学入学後の計画等を重視します。

■帰国子女入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、高校時代における体験や大学入学後の計画等を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の文章に関する理解力、論理的思考力、表現力に加え、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎的知識等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域においても、国際的な分野においても、人間社会で活躍するためには、国語・英語および情報処理の基本的な力は不可欠です。また経済学類では、特に数学の知識を前提にした授業を履修することが求められます。さらに現代社会の経済およびそこでの日本の位置づけを理解するためには、その前提として地理歴史・公民の知識が必要となります。現代の環境や技術革新の問題を学ぶためには、これと密接に結びついた科学技術の知識が必要であり、理科を学んでおくことが望まれます。

【学校教育学類】

激しく変動するグローバル社会の中で、これからの学校教育における新たな学びを支える教師には、教科や教職に関する専門的な知識および実践的指導力に加え、絶えず自律的に学び続け、学校を取り巻く現代社会の変化や諸問題を的確に把握し、使命感を持って課題解決にあたる姿勢が求められます。また、様々な社会的背景を持った多様な子どもたちに向き合い、より深く、共感的に理解しつつ、子どもの発達等に関する専門的知見を踏まえながら、一人一人の子どもたちのニーズに応じた対応が求められます。

学校教育学類は、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に養成することを主たる目標としており、専門職としての教師への熱意にあふれ、かつ地域における文化の形成に寄与する人材を求めます。

学校教育学類には、教育科学コースと教科教育学コースのもと、教育基礎、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育の11の専修があります。各専修への所属は2年進級時に、本人の希望、適性等を総合的に考慮したうえで決定します。

求める人材

- ・自立した専門職としての教師を目指す人
- ・社会、自然、人間、文化、教育について深い関心を持っている人
- ・自分の考えを表明し、他者との対話を通じて、反省的に自己を形成していこうとする人
- ・教育を通じて、地域社会の再生と発展に貢献しようとする意志を持っている人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、英語、そして国語・数学・理科から1教科を課して学力を多面的に評価します。

■推薦入試

〈石川県教員希望枠〉

基礎学力及び勉学意欲ならびに、石川県で教職に就くことへの熱意、資質・適性等を総合的に評価します。

〈専修枠〉

【国語・社会科・英語教育専修】

基礎学力及び勉学意欲、人文・社会科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。

【数学・理科教育専修】

基礎学力及び勉学意欲、自然科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。

【音楽教育専修】

基礎学力及び演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力、楽典の基礎的知識、志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を評価します。

【美術教育専修】

基礎学力、形体に対する表現力、課題に対する思考能力と論述能力、基礎知識・論理的思考能力及び勉学意欲や資質並びに提出作品等から総合的に評価します。

【保健体育専修】

基礎学力及び高校時代のスポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲と資質、大学入学後の計画等を総合的に評価します。

【家政教育専修】

基礎学力及び家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【特別支援教育専修】

基礎学力、課題に対する思考能力と論述能力、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力及び本学類としての適格性を評価します。なお、本学類は日本における義務教育段階の諸学校の教師を養成することを主たる目的とします。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

学校教育学類では、小学校一種免許状と、中学校一種免許状あるいは特別支援学校教諭一種免許状の取得に必要な

科目の履修が卒業要件となっていることから、次の3点が望まれます。

- ・小学校・中学校・高等学校およびそれらに相当する学校など、これまで在籍してきた学校において教授された知識や技術を確実に獲得しておくこと
- ・大学で専門とする予定の分野に関する興味・関心を深めておくこと
- ・これまでの学校経験を省察するなどして、学校や教師のあり方について自分なりの考えを持っておくこと

【地域創造学類】

地域創造学類は、地域の自然的・文化的資源、伝統、人材、資金、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、住民の健康・福祉・環境・産業・文化・観光を発展させるとともに、新たな価値創出によって地域を再生し活性化するため、質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。

地域創造学類には地域プランニング、環境共生、福祉マネジメント、観光学・文化継承の4つのコースがあります。推薦入試以外の学生は、2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮して各コースに所属します。

求める人材

- ・大学での地域創造学の学習に必要な基礎的学力を有している人
- ・地域創造力を修得するために、本を読み、文章を書き、地域に出かけ、能動的に学修する努力を惜しまない人
- ・誰もが生き生きと安心して暮らせる地域づくりとグローバルな共生社会の発展に貢献したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では文系・理系科目両面の基本的科目である国語・数学・外国語から2科目を選択し、後期日程では小論文課題から理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

福祉マネジメント・環境共生・地域プランニングコースでは、基礎学力に加え、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■帰国子女入試

小論文課題から、地域創造に関わる課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価し、成績証明書（調査書）及び面接により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■私費外国人留学生入試

小論文課題を論述することにより、基礎的知識・思考能力・論述能力等を総合的に評価します。面接では、多面的な質問をおこない、勉強意欲や地域創造学類への適性を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域創造学類では、地域プランニング、環境共生、福祉マネジメント、観光学・文化継承の各コースにおいて、専門的総合的に地域創造学を学ぶことから、高等学校で学ぶ

教科全般について文系・理系科目両面にわたり理解しておくことが求められます。

また、地域の諸問題を調査・分析し、政策立案できる能力の修得を目指しています。その前提として、地域社会に対して強い関心を持ち、自ら主体的に情報を集め、自分なりの考えをまとめられるようにしておくことが望まれます。

【国際学類】

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外のNPO、NGOで経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感性、国際的な場におけるコミュニケーションに必要な外国語運用能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

国際学類には国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパの5つのコースがあり、また、国際社会、米英の両コースには英語だけで卒業できる英語プログラムもあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・多文化や多民族、及び国際社会における諸問題に積極的な興味を持つ人
- ・自国文化のアイデンティティを常に問い続ける、探究心あふれる人
- ・英語をはじめとする国際的に重要な外国語の実践的な運用能力を高めるために、努力を惜しまない人
- ・探究心とコミュニケーション能力を用いて、諸問題を粘り強く話し合い、国際的な場で相互理解と交渉妥結に達しようとする人
- ・将来、国際的な場での活動への従事を目指す人
- ・外国人に対する日本語教師を目指す人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では国語・英語（センター試験の「英語」については、4技能をみる英語外部試験（TOEFL-iBT, IELTS〈アカデミック・モジュール〉, GTEC-CBT, TEAPのいずれか）のスコアを提出することができます）の学力、後期日程では英語（センター試験の「英語」については同上）を含む小論文課題の読解力・分析力・思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

第1次選考では、4技能をみる英語外部試験（TOEFL-iBT, IELTS〈アカデミック・モジュール〉, GTEC-CBT, TEAPのいずれか）のスコア及び調査書、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の際の参考とします。

■帰国子女入試

第1次選考では、4技能をみる英語外部試験（TOEFL-iBT, IELTS〈アカデミック・モジュール〉, GTEC-CBT,

TEAP のいずれか) のスコア及び成績証明書 (調査書)、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の際の参考とします。

■私費外国人留学生入試

英語及び日本語の文章を読ませ、それに関する問いに日本語で答えさせます。これによって、英語の知識とともに、社会・文化についての知識や論理的思考力及び日本語能力を総合的に評価します。また、面接では、基礎知識や日本語によるコミュニケーション能力、勉学意欲を十分に有しているかを重視します。そして、日本留学試験の成績や英語外部試験 (TOEFL) のスコアと合わせて、総合的に判定します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

国際学類ではグローバル化する世界を多様な観点から理解し、異文化との (しなやかな共生) を実現することのできる真の国際人を送り出すことを目指しています。この目的の実現のために、高校在学中に「英語」や「政治・経済」、「世界史」、「地理」などの学習に積極的に取り組み、これらの教科の知識を十分に獲得しておくことが望まれます。また真の国際人として活躍するためには、自国の歴史・文化についての教養も不可欠です。そこで受験生には、日本理解の基礎として「日本語」(国語) 及び「日本史」の学習を強く推奨します。「日本語」での読み・書き・話すこと的能力は、大学で高度な知的訓練を受けるにあたり絶対必要な条件です。国内外において外国の人々と、積極的にコミュニケーションする意欲をもつことも望まれます。入学後の研究テーマによっては、これらに加えてグローバル・イシューに関係する様々な教科を学ぶ必要があります。

《理工学域》

【数物科学類】

数学、物理学は長い歴史をもつ学問として、互いに大きな影響を与え合いながら発展してきました。また、計算機シミュレーションという新しい研究手段の導入により、これまで困難とされていた複雑な数理や自然現象の理解に大きな進展がもたらされています。それらは自然科学をはじめとする現代のあらゆる科学の基礎を支えています。数物科学類では、21世紀の科学として発展を遂げつつある新しい数学、物理学、計算科学を学ぶことを通じ、国際社会の発展に寄与できる人材を育成します。より具体的には数理的、あるいは物理的なものの見方、思考法及び洞察力を身につけ、教育、情報・通信、金融をはじめ、高度情報化社会の様々な分野で活躍できる人材を育成することが目標です。

1年次では学類共通で基礎的科目を学び、2年進級時に本人の希望にもとづき、数学、物理学、計算科学の3つのコースのいずれかを選択し、より専門的な内容の学修へと進みます。

数物科学類では、数学・物理学の基礎に加えて計算機の技術も学ぶことでバランスのとれた力を身につけることができる特徴があります。科学の基礎分野における問題意識や基本原理を学び、様々な数理・自然現象を説明することができる

こと、最先端の研究開発に応用可能な技術や問題解決能力を身につけること、コミュニケーション能力や表現能力、種々の自然現象を数学・物理の原理に基づいて分析し計算機の助けを借りて解析し、自ら課題を発見して論理的考察を行い、科学的実証により問題を解決することを重視します。

求める人材

- ・数学や物理学に興味をもち、それに取り組む熱意と探究心をもっている人
- ・計算機シミュレーション及びそれを生かした科学研究に興味のある人
- ・将来、数学、物理学、計算科学及びそれらの関連分野の研究や教育に携わりたい人
- ・基礎科学をじっくりと学び、それを国際社会の発展に活かしたいと考えている人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では数物科学類にとっての基本的科目である数学・理科及び英語の学力、後期日程では数学・物理の学力を重視します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学の学力を重視するとともに、面接により理解度、勉学意欲、基本的知識等を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学・物理の学力及び日本語・英語の語学力を重視するとともに、面接により日本語能力、勉学意欲、資質を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等の課程において、5教科7科目(数学、理科、外国語、国語、地理歴史・公民)又はそれに相当する科目を学び、そこで学修したことを十分に身につけておくことが必要です。

【物質化学類】

化学は自然界で起こる様々な現象の原子・分子レベルでの理解から、21世紀に必要とされる環境に適合した新しい機能性物質の創製、さらに日常生活を支える様々な化学製品の開発と製造過程に至るまでの幅広い領域を含んでいます。物質化学類では、化学を通じて人類が自然と共生しながら持続的に豊かに生きるための科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献し、社会のグローバル化を積極的に担える理学及び工学的素養を身につけた人材の育成を目標としており、“独自に考える力”と“未知の分野に対する強い探究心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待します。

物質化学類には化学と応用化学の2つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象の観察と実験に強い興味を持ち、実験を通して創造的に自然と関わりたい人
- ・独自に考える力と自然に対する好奇心を持ち、発見の感動を味わいたい人
- ・研究を通して得た成果を世界に向けて発信し、社会や自

然界へ応用することに意欲がある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では物質化学にとつての基本的科目である数学・化学及び英語の学力、後期日程では化学の知識・理解度を重視します。

■帰国子女入試

物質化学にとつての基本的科目である数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書（調査書）により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、大学の授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目（大学入試センター試験で課している科目）について十分に理解できていることが必要です。さらに、化学を含む理系科目（理科、数学）は理学・工学の基礎となる科目ですので非常に重要です。文系科目（国語、外国語、社会系科目（地歴・公民））も自分の意見をまとめコミュニケーションを行うために必要です。また、高校生活の中で、日常的な科学現象に興味を持ち、それらを意欲的に探究する姿勢を身につけてください。

【機械工学類】

機械工学類では、技術者・研究者として、安全で安心な生活を支え、かつ、向上をもたらす様々な工業製品から、最先端技術の開発に至るまでを対象とした、先進的な設計技術、超精密加工、高度なシミュレーション技法の研究、さらに、エネルギー問題の解決に取り組み、ものづくりのリーダーとして国際的に広く活躍する人材を育成します。そのために、機械工学の基盤となる物理学・数学を積極的に取り入れ、基礎学力の上に立脚した应用能力を涵養し、先端的な教育・研究を通して技術革新を担う能力を育成します。また、自己を知り自己の人間力や表現力を高めるため、倫理・環境に関する教育・研究を実施して工学のみならず社会の調和に貢献する人間力を養成します。

本学類は、物理学・数学を駆使し、原子・分子レベルから、巨大構造までを対象とした最適設計法、超精密加工技術、新素材の開発など、未知の領域に挑む分野から、環境に配慮した新エネルギーやエンジンの開発など、自然の保護と持続に貢献する分野まで、広く興味を持つ人材の入学を期待します。

求める人材

- ・先端機械工学への興味、ものづくりへの熱意、人間支援に対する高い志を持ち、講義、実験や実習、さらには研究に積極的に参加して行動できる人
- ・技術倫理についての自覚を持ち、地球環境への関心が高く、グローバルな視野の拡大と国際的コミュニケーション能力の向上に意欲を持つ人
- ・独創性と創造性があり、自ら問題点を解決する意欲を持つ人

選抜の基本方針

■一般入試

前期日程では、機械工学類とフロンティア工学類（仮

称）と電子情報通信学類（仮称）の選抜を一括して行います。この一括入試では基礎学力に加え、3学類において基礎となる数学・物理・英語の学力を評価します。入学後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路をみつけていく経過選択制を導入しており、各学類への所属は2年進級時からとなります。出願時に所属を希望する学類がある場合は1つだけ優先配属を申請でき、優先配属は入試成績により決定されます。ただし、優先配属となった場合でも、2年進級時に優先配属を辞退して、他の2学類を再希望することができます。

■帰国子女入試

理系基礎科目である数学、物理及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書（調査書）により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、理系基礎科目である数学、物理、化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目（理系科目及び文系科目）及び一般入試の個別学力検査で課している科目（数学・理科・英語）について、十分理解しておくことが必要です。また、身の回りの“モノづくり”の仕組みから日常的な科学現象まで、幅広い興味と探究心を持つことが望まれます。

【フロンティア工学類】（仮称）

本学類では、機械工学、化学工学、電子情報工学の知と技を結集した最先端の教育及び研究を通して、ナノの世界から宇宙空間や人間社会にわたるまでの様々な未踏領域を切り拓き、グローバルな観点から、工学の飛躍的な発展と、近未来社会の創造を牽引していくエンジニアや研究者の育成を目指します。具体的には、ロボティクス、航空宇宙工学、高度センシング技術、ナノテクノロジー、新機能性材料など技術革命をもたらす先進的な分野から、医療福祉工学、生活支援機器、化学製品など生活や社会の調和と発展をささえる分野まで、広く興味を持つ人材を受け入れます。本学類ではコース制は採用せず、電子機械、機械、化学工学、電子情報の4つのコアプログラムと、知能ロボティクス、バイオメカトロニクス、マテリアルデザイン、計測制御システムデザイン、ヒューマン・エコシステム、ナノセンシングの6つのフロンティアプログラムを組み合わせ履修します。

求める人材

- ・ロボティクス、航空宇宙、スマートビークル、スマートセンシング、インテリジェント制御、ナノスケール計測、高分子、微粒子材料の開発など、新たな技術や学問分野の開拓に意欲を持つ人
- ・メカトロニクス、医療福祉工学、物質システムを中心とした、機械工学、電子情報工学、化学工学の分野でエンジニア、研究者、教育者の道に進みたい人
- ・グローバルな視点からの技術革新を通じて、次世代の社会を創造していく技術の構築に高い志を持つ人
- ・人間性、独創性と創造性が豊かで、自ら問題点を解決す

る意欲を持つ人

選抜の基本方針

■一般入試

前期日程では、機械工学類とフロンティア工学類（仮称）と電子情報通信学類（仮称）の選抜を一括して行います。この一括入試では基礎学力に加え、3学類において基礎となる数学・物理・英語の学力を評価します。入学後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路をみつけていく経過選択制を導入しており、各学類への所属は2年進級時からとなります。出願時に所属を希望する学類がある場合は1つだけ優先配属を申請でき、優先配属は入試成績により決定されます。ただし、優先配属となった場合でも、2年進級時に優先配属を辞退して、他の2学類を再希望することができます。

■帰国子女入試

理系基礎科目である数学、物理及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書（調査書）により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、理系基礎科目である数学、物理、化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目（理系科目及び文系科目）及び一般入試の個別学力検査で課している科目（数学・理科・英語）について、十分理解しておくことが必要です。また、身の回りのモノづくりや製品の仕組みから日常的な科学現象まで、幅広い興味と探究心を持つことが望まれます。

【電子情報通信学類】（仮称）

本学類が対象とする分野は、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会を創造する電気電子技術（EET）と情報通信技術（ICT）からなります。本学類は、電気エネルギー創成・変換、ナノテクノロジー、光・電子デバイス、宇宙探査、セキュリティ、人工知能、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなどに興味がある人材の入学を期待しています。

本学類には電気電子及び情報通信の2つのコースがあります。地球的視点や技術者としての高い倫理観を有し、電気電子・情報通信分野の未来の課題に対する解決能力を有する自立した技術者・研究者を養成します。

求める人材

- ・エネルギー、エレクトロニクス、情報通信に関する技術を身につけて国内外の幅広い分野で活躍したい人
- ・科学実験やコンピュータなどに関心があり、電気電子・情報通信分野の未来の課題を見つけて創意工夫したい人
- ・数学が得意な人、物理学、数学の応用に積極的に取り組みたい人

選抜の基本方針

■一般入試

前期日程では、機械工学類とフロンティア工学類（仮称）と電子情報通信学類（仮称）の選抜を一括して行い

ます。この一括入試では基礎学力に加え、3学類において基礎となる数学・物理・英語の学力を評価します。入学後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路をみつけていく経過選択制を導入しており、各学類への所属は2年進級時からとなります。出願時に所属を希望する学類がある場合は1つだけ優先配属を申請でき、優先配属は入試成績により決定されます。ただし、優先配属となった場合でも、2年進級時に優先配属を辞退して、他の2学類を再希望することができます。

■帰国子女入試

理系基礎科目である数学、物理及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書（調査書）により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、理系基礎科目である数学、物理、化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目においては、理系科目及び文系科目ともに重要であるため、確実に修得しておくことが望まれます。また、一般入試の個別学力検査で課している科目（数学、物理、英語）については、入学後の本学類における授業及び研究の基礎として非常に大切ですので、しっかりと学び、身につけておくことが求められます。

【地球社会基盤学類】（仮称）

本学類では、共通教育としての金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）に基づき、グローバル社会をリードする人材育成のため、われわれ人類の生存基盤となる地球、日常生活基盤となる社会、及びそれらを取り巻く環境を対象に、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力を身につけるため、地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識に基づく総合的・実践的な教育・研究を行い、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成します。科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待します。本学類には、地球惑星科学、土木防災、環境都市の3つのコースがあり、各コースへの配属は2年後期開始前に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象に対する科学的探究心のある人
- ・人文社会科学にも関心のある理系人間
- ・実験・野外調査や、ものづくり・創意工夫に興味のある人
- ・地域・我が国・世界の自然災害や防災・減災に関心のある人
- ・地球環境科学や土木都市工学の専門家や研究者になりたい人
- ・地球・環境・都市の課題に対し、科学技術を通じた社会貢献がしたい人
- ・都市や社会を支えるための科学技術に関心がある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、理系基礎科目である数学、理科及び英語の学力を重視します。また、理系科目だけではなく国語や地歴・公民を含む幅広い能力も重視します。

■帰国子女入試

理系基礎科目である数学、理科及び英語の学力を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、理系基礎科目である数学、物理、化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、学類での授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目（大学入試センターで課している科目を含む）について、しっかりと身につけておくことが必要です。特に、理系科目である数学、理科、また英語については、応用能力を含め、しっかりと身につけておくことが必要です。また、総合的な学力を身につけるために、理系のみならず、人文社会系科目の学修も勧めます。

【生命理工学類】（仮称）

「生命」は21世紀の最重要キーワードといわれており、様々な生物についてシステムとしての理解が急速に進みつつあります。本学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成します。本学類では、新分野を切り開く学術的探究心に富み、理学と工学の専門知識を活かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待します。

本学類には生命システム、海洋生物資源、バイオ工学の3つのコースがあります。また、各コースへの所属は、2年後期開始時に本人の希望と学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・生命現象に対して興味を持ち、理科系科目が得意で、実験や野外調査が好きな人
- ・日本海の海洋生物資源の持続的な有効利用と増養殖に興味がある人
- ・基礎生物学、分子生物学、進化生物学、生態学、システム生物学、遺伝子工学、バイオ工学、バイオリファインリー、生命情報学、環境科学、多様性生物学、海洋生物学、保全生物学などの分野で専門家や教育者の道に進みたい人
- ・生命科学やバイオ工学の分野で、新しい価値の創造や技術革新を目指したい人
- ・理学と工学の基礎知識を備えて、グローバル社会をリードし、生命・バイオ・海洋資源・環境分野で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、生命科学の基本的科目である数学、理科、外国語（特に英語）の学力を評価します。これら

に加え、前期日程では国語や地歴・公民を含む幅広い能力を重視します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数学、理科、英語の学力を評価します。加えて、成績証明書（調査書）等提出された書類により総合して評価します。

■私費外国人留学生入試

数学、理科、英語の学力を評価します。日常の生活に必要な日本語の読解・筆記能力も重視します。面接では、学類での授業を理解するための基礎知識や勉学意欲、コミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目（大学入試センターで課している科目を含む）について、しっかりと身につけておいてください。生命科学の基本的科目である数学、理科、英語については、応用能力を含め特にしっかりと身につけておいてください。また、自然科学全般に広く興味を持って勉強しておいてください。

《医薬保健学域》

【医学類】

医学類は、従来の医学部医学科に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得ることになります。

その上で、医学類では、社会の変化に適応しつつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェッショナルな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れます。

求める人材

明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行います。

なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本語で行われる関係上、相応の日本語能力を求めます。

選抜の基本方針

選抜の方法としては筆記試験、面接試験等を行います。医学では幅広い正確な知識とそれに基づいた合理的な思考力が必要とされるため、高等学校等で学ぶ教科全般について高いレベルの基礎的な知識と、単なる知識ではない理解力・思考力を全教科にわたり、偏りなく身につけておくことが望まれますが、特に理数系科目に重点を置き、筆記試験においてその能力を測ります。また、自己表現能力、課外活動（ボランティア、部活、生徒会活動等）の経験などを通じて得られた多様な人々と協働して学ぶ態度（協働性）、やり遂げる力（継続力）等を面接試験で評価します。

加えて、将来、石川県並びに富山県の地域医療をリードする指導的人材養成を目的とする推薦入試の特別枠では、石川県又は富山県の地域医療に貢献する強い意志を持った者を対象とします。

【薬学類】

一般入試においては薬学類・創薬科学類を一括して募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学修を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する

経過選択制を導入しています。AO入試においては、両学類を区別して募集し、大学院までの一貫した教育を導入しています。

求める人材（薬学類共通）

- ・国内外の大学・研究機関において、医療の進歩につながる基礎・応用研究を行い、次世代を担う人材を育成する薬学教育・研究者を志す者
- ・高度な専門性を活かし、人類の健康増進や医薬品等の適正使用、創製を通じて社会に貢献することを志す者
- ・先進的医療や薬剤師教育に主体的に取り組む医療従事者や、衛生行政従事者を志す者

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・生命薬学や医療に関連する分野を深く主体的に学ぶことに意欲的で、大学院医薬保健学総合研究科・薬学専攻博士課程（4年制）までの一貫した教育を受けて高度な専門性を身につけ、薬剤師の資格と博士（薬学または学術）の学位を取得して薬系大学等の教育・研究者となり、次世代の薬剤師や教育・研究者の養成を担うことを志す者

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数英科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について評価し、特に以下の(1)～(4)を重視します。(1)は書類審査及び大学入試センター試験の得点、(2)～(4)は書類審査、小論文及び面接試験で評価を行い、薬学類・創薬科学類がAO入試で求める人材であるかどうか、総合的に判断します。

- (1) 必要な基礎学力を備えているか
- (2) 将来への目的意識が明確で、そこへ向かう意欲・資質を有するか
- (3) 本質を理解しようとする探究心や洞察力を持ち、自主的・主体的に問題を見出して解決することに積極的か
- (4) 本学における博士課程までの一貫した学修を強く希望しているか

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課している科目）について、しっかり理解することが求められます。特に、理数英科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【創薬科学類】

一般入試においては薬学類・創薬科学類を一括して募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学修を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する

経過選択制を導入しています。AO入試においては、両学類を区別して募集し、大学院までの一貫した教育を導入しています。

求める人材（創薬科学類共通）

- ・国内外の大学・研究機関において、医療の進歩につながる基礎・応用研究を行い、次世代を担う人材を育成する薬学教育・研究者を志す者
- ・製薬企業等の研究所において、病気で苦しむ世界中の人々を救う医薬品等の創製に携わることを志す者
- ・人類の健康維持増進に取り組む国内外の衛生行政機関等において、主導的役割を果たすことを志す者

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・医薬品創製や健康増進を中核に据えた生命科学に関連する分野を深く主体的に学ぶことに意欲的で、大学院医薬保健学総合研究科・創薬科学専攻博士前期（2年制）及び博士後期（3年制）課程までの一貫した教育を受けて高度な専門性を身につけ、博士（創薬科学または学術）の学位を取得して薬系大学・研究所等で国際的に活躍する創薬研究者となることを志す者

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数英科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について評価し、特に以下の(1)～(4)を重視します。(1)は書類審査及び大学入試センター試験の得点、(2)～(4)は書類審査、小論文及び面接試験で評価を行い、薬学類・創薬科学類がAO入試で求める人材であるかどうか、総合的に判断します。

- (1) 必要な基礎学力を備えているか
- (2) 将来への目的意識が明確で、そこへ向かう意欲・資質を有するか
- (3) 本質を理解しようとする探究心や洞察力を持ち、自主的・主体的に問題を見出して解決することに積極的か
- (4) 本学における博士後期課程までの一貫した学修を強く希望しているか

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課している科目）について、しっかり理解することが求められます。特に、理数英科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【保健学類】

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人

間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。教育目標は、1)現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2)日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3)保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4)保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5)豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6)学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成がおこなわれており、このため募集単位は看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

【看護学専攻】

看護科学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問です。看護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習します。さらに、学内及び学外の医療、保健および福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、看護師、*保健師の国家試験受験資格を取得することができます。

*保健師課程については、平成26年度入学生から選択制としています。詳細は随時金沢大学（医薬保健学域保健学類）Webサイトなどに掲載してまいりますので、保健師を希望している方は確認してください。

【放射線技術科学専攻】

放射線技術科学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問です。診療放射線技師となるために必要な専門技術を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養います。また、研究室配属を通じて、将来の放射線技術科学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【理学療法学専攻】

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などに損傷や障がいをきたした人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻では、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践

的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成します。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

【作業療法学専攻】

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度をもつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立つ人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

求める人材

【看護学専攻】

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人

【検査技術科学専攻】

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【理学療法学専攻】

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

【作業療法学専攻】

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程(全専攻)では、看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻は理科及び英語の学力、

放射線技術科学・検査技術科学の2専攻は数学・理科及び英語の学力、後期日程（3専攻）では面接試問での理解力・表現力・勉学意欲・資質適性等を重視します。

■推薦入試

面接で医療人としての適格性の評価および調査書による総合評価をします。また、看護学専攻、作業療法学専攻では小論文による資質評価をし、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻では基礎学力を重視します。

■帰国子女入試

理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をします。

■私費外国人留学生入試

学力検査により本学類の修学上に必要な基礎学力を有しているかを評価し、面接を通じて、志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む。）、英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

【看護学専攻】

論理的思考力・表現力を身につけるため、文系科目と理系科目の幅広い基礎学力の習得を望みます。

【放射線技術科学専攻】

科学的な視点で事象を理解するための基礎的な知識が必要であり、理科・数学を学んでおくことが望まれます。また、文章を正確に読解し、事象に応じて的確に記述する国語・英語力の習得を望みます。

【検査技術科学専攻】

種々の臨床検査技術における基礎となる理論や科学的考察には、数学、物理、化学及び生物学の考え方や知識が必要で、高等学校においてこれらの教科の履修が望まれます。また、情報収集及び発信に必要な英語の力が求められます。

【理学療法学専攻】

高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語について十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。

【作業療法学専攻】

理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望みます。

《後期一括入試》

【文系後期一括、理系後期一括】

金沢大学では、「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」を大学憲章において教育目標に掲げています。さらに金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）では、科学的な世界観と歴史観、論理的展開力、己を磨く人間力、創造力、そして日本文化・異文化に対する深い理解力を備え、知的基盤社会の中核的リーダーとなって挑戦し続ける人材の育成に努めることを謳っています。金沢大学は、上述の目標と大学に求められる社会的役割を踏まえ、入学後の学修、研究に必要な基礎学力を有し、さらに豊かな教養の涵養、高い専門性の修習を目指す学生が入学することを期待します。

特に文系後期一括、理系後期一括入試においては、様々な分

野にまたがって強い興味と関心を持ち、幅広い分野に触れて自らの視野を広げながら主体的に学ぶ熱意があり、かつ、積極的に課題を発見して取り組む意欲のある人を受け入れます。

後期一括入試で入学した学生は、国際基幹教育院総合教育部に1年間所属し、文系の場合は人文科学・社会科学に関する分野を、理系の場合は自然科学に関する分野を広く学び、2年進級時に、本人の希望、学業成績等を考慮の上、文系の場合は人間社会学域の中から、理系の場合は理工学域もしくは医薬保健学域（薬学類を除く）の中から移行する学類（保健学類の場合は専攻）を決定します。

求める人材

- ・多様な分野にまたがり強い興味と関心を持つ人
- ・幅広い分野に触れて自らの視野を広げながら主体的に学ぶ熱意がある人
- ・積極的に課題を発見して取り組む意欲のある人
- ・リーダーシップと協調性を持つ、あるいはこれからそれらを身につけることを目指す人
- ・意思決定に伴う責任を自覚した上で、客観的かつ科学的な状況分析を心がける人

選抜の基本方針

■一般入試

文系後期一括入試では、基礎学力に加え、総合的な課題（総合問題）の理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。総合的な課題（総合問題）には英語を含む場合があります。

理系後期一括入試では、数学及び英語の基礎学力に加え、物理学もしくは化学の学力を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力・表現力を身につけておくことが望まれます。

国際バカロレア入試のアドミッション・ポリシー

金沢大学では、「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」を大学憲章において教育目標に掲げ、さらに金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）では、科学的な世界観と歴史観、論理的展開力、己を磨く人間力、創造力、そして日本文化・異文化に対する深い理解力を備え、知的基盤社会の中核的リーダーとなって挑戦し続ける人材の育成に努めることを謳っています。金沢大学は、本学の教育を受けるのに必要な資質と基礎学力を有し、豊かな教養と高度な専門性を身につけたいという強い意欲を持つ人を国内外から広く受け入れます。

特に国際バカロレア入試においては、自主的に課題を発見し解決する意欲があり、国際交流に必要な表現力とコミュニケーション能力（英語）を修得して世界に向けて活躍する熱意を持ち、かつ入学を希望する学類のアドミッション・ポリシーに適した人を受け入れます。

2 募集人員

学域・学类等	入学定員	募集人員										
		一般入試			推薦入試	帰国子女入試	国際バカロレア入試	AO入試	私費外国人留学生入試	3学類前期一括入試の移行人数	後期一括入試入学者の移行人数	
		前期日程	後期日程	後期日程								
人間社会学域	人文学類	145	100	32	—	若干名	若干名	—	若干名	—	13	
	法学類	170	115 (L方式70) (M方式45)	30	推薦入試Ⅱ 10	若干名	若干名	—	若干名	—	15	
	経済学類	135	110	—	推薦入試Ⅰ 10	若干名	若干名	—	若干名	—	15	
	学校教育学類	100	64	—	文系62	推薦入試Ⅱ 34	—	若干名	—	若干名	—	2
						石川県教員希望枠 8						
						専修枠 26						
						国語・社会科・英語教育専修 3						
						数学・理科教育専修 3						
音楽教育専修 4												
美術教育専修 3												
保健体育専修 5												
家政教育専修 3												
特別支援教育専修 5												
地域創造学類	90	55	10	推薦入試Ⅱ 15	若干名	若干名	—	若干名	—	10		
福祉マネジメントコース 5												
環境共生コース 5												
地域プランニングコース 5												
国際学類	85	48	15	推薦入試Ⅰ 15	若干名	若干名	—	若干名	—	7		
計	725	492	87	推薦入試Ⅰ 84	—	—	—	—	—	62		
				推薦入試Ⅱ 25								
				推薦入試Ⅱ 59								
理工学域	数物科学類	84	64	12	—	若干名	若干名	—	若干名	—	8	
	物質化学類	81	55	18	—	若干名	若干名	—	若干名	—	8	
	機械工学類	100	252	—	—	—	—	—	—	90	10	
	フロンティア工学類(仮称)	110	(3学類前期)	—	—	若干名	若干名	—	若干名	90	20	
	電子情報通信学類(仮称)	80	一括入試*)	—	—	—	—	—	—	72	8	
	地球社会基盤学類(仮称)	100	78	12	—	若干名	若干名	—	若干名	—	10	
	生命理工学類(仮称)	59	50	—	—	若干名	若干名	—	若干名	—	9	
	計	614	499	42	—	—	—	—	—	252	73	
医薬保健学域	医学類(6年制)	107	84	—	推薦入試Ⅱ 22 (一般枠 15 特別枠 7)	若干名	—	—	若干名	—	1	
	薬学類(6年制)	35	—	—	—	若干名	若干名	3	若干名	—	—	
	創薬科学類	40	64	—	—	若干名	若干名	6	若干名	—	2	
	保健学類	看護学専攻	80	55	9	推薦入試Ⅰ 15	若干名	若干名	—	若干名	—	1
		放射線技術科学専攻	40	29	5	推薦入試Ⅱ 5	若干名	若干名	—	若干名	—	1
		検査技術科学専攻	40	29	3	推薦入試Ⅱ 6	若干名	若干名	—	若干名	—	2
		理学療法学専攻	20	15	—	推薦入試Ⅱ 4	若干名	若干名	—	若干名	—	1
		作業療法学専攻	20	14	—	推薦入試Ⅰ 5	若干名	若干名	—	若干名	—	1
		小計	200	142	17	推薦入試Ⅰ 35	—	—	—	—	—	6
	計	382	290	17	推薦入試Ⅰ 20	—	—	—	—	—	9	
				推薦入試Ⅱ 15			9					
				推薦入試Ⅰ 57								
				推薦入試Ⅰ 20								
				推薦入試Ⅱ 37								
合計	1,721	1,281	146	144	推薦入試Ⅰ 141	—	—	9	—	252	144	
					推薦入試Ⅱ 45							
					推薦入試Ⅱ 96							

(注) * 「理工3学類(機械工学類, フロンティア工学類(仮称), 電子情報通信学類(仮称))前期一括入試」の略称

- 前期日程の募集人員には、帰国子女入試及び国際バカロレア入試の募集人員も含まれます。
- 推薦入試、帰国子女入試、国際バカロレア入試及びAO入試の合格者(入学手続者)が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の合格者で補充します。
- 法学類の一般入試(前期日程)のL方式は個別学力検査で国語と外国語を受験する方式、M方式は個別学力検査で数学と外国語を受験する方式です。
- 機械工学類、フロンティア工学類(仮称)、電子情報通信学類(仮称)の一般入試(前期日程)は、3学類一括で実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。
- 医薬保健学域薬学類(6年制)、創薬科学類(4年制)の一般入試、帰国子女入試、国際バカロレア入試、私費外国人留学生入試の選抜は一括で実施します。各学類への所属(薬学類32名、創薬科学類32名)は3年次後期からとなります。
- 文系後期一括入試及び理系後期一括入試は「後期日程」で実施します。入学者の移行先は、文系後期一括入試においては、人間社会学域各学類とし、理系後期一括入試においては、理工学域及び医薬保健学域各学類(医薬保健学域薬学類を除く)とします。各学域学類への移行は2年進級時となります。1年次は国際基幹教育院総合教育部に所属します。
- 推薦入試Ⅰは、大学入試センター試験を課さない推薦入試です。推薦入試Ⅱは、大学入試センター試験を課す推薦入試です。
- 学校教育学類の推薦入試Ⅱにおける石川県教員希望枠の入学後の各専修への配属は一般入試と同様に2年進級時となります。また、専修枠「国語・社会科・英語教育専修」および「数学・理科教育専修」のそれぞれの専修への配属についても2年進級時となります。

3 入学者選抜方法等

1 一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試

学域・学類等	選抜方法等	個別学力検査等								卒業生・総合学科 入試	個別学力検査等の日程	備考 〔欠員の補充の方法等〕		
		個別学力検査を課す	実技検査等				2段階選抜							
			実技検査を課す	面接又は口述試験を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の合格者数	その他				定員に対する倍率	
前期日程														
人間社会学域	人文学類						○*						平成30年 2月25日(日)	3 2 1 「前期日程」と「前期日程」、「後期日程」と「後期日程」の併願はできないので注意してください。 欠員の補充は、追加合格及び欠員補充第2次募集により行います。
	法学類													
	経済学類	○	×	×	×		×	×	×	×				
	学校教育学類													
	地域創造学類						○*							
理工学域	国際学類						×							
	数物科学類													
	物質化学類													
	機械工学類													
	フロンティア工学類(仮称)	○	×	×	×	×	×	×	×	×				
医薬保健学域	電子情報通信学類(仮称)													
	地球社会基盤学類(仮称)													
	生命理工学類(仮称)													
	医学類				○			○	3.5倍程度					
	薬学類													
	創薬科学類													
	看護学専攻	○	×		×	×				×	×			
保健学類	放射線技術科学専攻				×					×				
	検査技術科学専攻									×				
	理学療法学専攻													
	作業療法学専攻													
後期日程														
人間社会学域	人文学類												平成30年 3月12日(月)	
	法学類	×	×	×	○	×	×	×	×	×				
	地域創造学類													
理工学域	国際学類													
	数物科学類													
	物質化学類	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
医薬保健学域	地球社会基盤学類(仮称)													
	看護学専攻													
	放射線技術科学専攻	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×			
一後期括	検査技術科学専攻													
	理学療法学専攻													
一後期括	作業療法学専攻													
	文系後期一括	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
一後期括	理系後期一括													

- (注) 1. ○印は該当することを示し，×印は該当しないことを示します。
2. ○*は，選択できる学域学類の中でドイツ語，フランス語及び中国語を選択した場合にリスニングテストを課すことを示します。
3. 機械工学類，フロンティア工学類(仮称)，電子情報通信学類(仮称)の一般入試(前期日程)は，3学類一括で実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。
4. 医薬保健学域薬学類(6年制)，創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
5. 文系後期一括入試及び理系後期一括入試は「後期日程」で実施します。入学者の各学域学類への移行は2年進級時となります。1年次は国際基幹教育院総合教育部に所属します。
6. 実施教科・科目等については，16～25ページで確認してください。

2 推薦入試, 帰国子女入試, 国際バカロレア入試, アドミッション・オフィス入試 (AO 入試), 私費外国人留学生入試

学域・学類等	選抜方法等	推 薦 入 試								帰国子女・社 会人等のた めの入試			国際バ カロレア入 試	アドミ ッション・ オフィス入 試	私費外国 人留学生入 試	その他 の入試	備 考		
		入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する								推 薦 入 試 募 集 人 員	帰 国 子 女	中 国 引 揚 者 等 子 女	社 会 人						
		学 入 試 セ ン タ ー 試 験 を 課 す	個 別 学 力 検 査 及 び 大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 を 免 除 す	実 技 検 査 を 課 す	面 接 又 は 口 述 試 験 を 行 う	小 論 文 を 課 す	外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ テ ス ト を 課 す	そ の 他											
人間社会学域	人文学類	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×	○	×	○	×	は、1つの大学・学部(学域学類)ですので注意してください。	
	法学類	○	×	×	○	×	×	×	10										
	経済学類	×	○	×	○	○	×	×	10										
	学校教育学類 専修 学類	石川県教員希望枠	○	×	×	○	×	×	×										8
		国語・社会科・英語教育専修	○	×	×	○	×	×	×										3
		数学・理科教育専修	○	×	×	○	×	×	×										3
		音楽教育専修	○	×	○	○	×	×	×										4
		美術教育専修	○	×	○	○	×	×	○ ^{*1}										3
		保健体育専修	○	×	×	○	×	×	×										5
		家政教育専修	○	×	×	○	×	×	×										3
		特別支援教育専修	○	×	×	○	×	×	×										5
地域創造学類	福祉マネジメントコース	○	×	×	○	×	×	×	5										
	環境共生コース	○	×	×	○	×	×	×	5										
	地域プランニングコース	○	×	×	○	×	×	×	5										
国際学類	×	○	×	○	×	×	○ ^{*2}	15											
理工学域	数物科学類	×	×	×	×	×	×	×	—	○ ^{*3}	×	×	○ ^{*3}	×	○ ^{*3}	×			
	物質化学類	×	×	×	×	×	×	×	—										
	機械工学類	×	×	×	×	×	×	×	—										
	フロンティア工学類(仮称)	×	×	×	×	×	×	×	—										
	電子情報通信学類(仮称)	×	×	×	×	×	×	×	—										
	地球社会基盤学類(仮称)	×	×	×	×	×	×	×	—										
	生命理工学類(仮称)	×	×	×	×	×	×	×	—										
医薬保健学域	医学類	一般枠	○	×	×	○	×	×	×	15	○	×	×	×	○	×	×		
		特別枠								7									
	薬学類	×	×	×	×	×	×	×	—										
	創薬科学類								—										
	保健学類	看護学専攻	×	○	×	○	○	×	×	15									
		放射線技術科学専攻	○	×	×	○	×	×	×	5									
		検査技術科学専攻	○	×	×	○	×	×	×	6									
		理学療法学専攻	○	×	×	○	×	×	×	4									
作業療法学専攻		×	○	×	○	○	×	×	5										

- (注) 1. ○印は該当することを示し、×印は該当しないことを示します。
2. ○^{*1}の人間社会学域学校教育学類美術教育専修推薦入試では、作品の提出を求めます。
3. ○^{*2}の人間社会学域国際学類では、外部試験(TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAPのいずれか)のスコアを判定の資料とするため、スコアの提出を求めます。
4. ○^{*3}の機械工学類, フロンティア工学類(仮称), 電子情報通信学類(仮称)の帰国子女入試, 国際バカロレア入試及び私費外国人留学生入試は、3学類一括で実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。
5. AO入試は、大学入試センター試験を課す入試です。
6. ○^{*4}のAO入試における医薬保健学域薬学類(6年制)と創薬科学類(4年制)の選抜はそれぞれ分けて実施します。
7. 募集人員, 出願要件, 選抜方法等については、26～56ページで確認してください。

4 一般入試

入学者の選抜は、分離・分割方式（前期日程・後期日程）で行い、大学入試センター試験並びに本学が行う個別学力検査等及び調査書の審査の結果を総合して行います。

一般入試は、配点比率を示した大学入試センター試験と個別学力検査等の結果を総合して合否判定を行うのが基本であり、調査書は履修状況・学業成績等を確認するための資料ないし面接試験の参考資料として用います。

1 実施日程

(1) 大学入試センター試験

大学入試センター試験実施日……………平成30年1月13日（土）、14日（日）

(2) 個別学力検査

項目	前期日程	後期日程
出願期間	平成30年1月22日（月）～1月31日（水）	
2段階選抜の 第1段階選抜 合格者発表日	2月7日（水） ※医薬保健学域医学類のみ	—
学力検査等実施日	2月25日（日） ※全学域	3月12日（月）
	2月26日（月） ※医薬保健学域医学類の面接のみ	
合格者発表日	3月7日（水）	3月21日（水・祝日）

2 出願資格

次のいずれかに該当し、平成30年度大学入学者選抜大学入試センター試験において、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目（16～25ページ「3. 入学者選抜の実施教科・科目等」）を受験した者*

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者
- (4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第7号の規定により、本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

【注】 上記（4）により出願しようとする場合は、個別の入学資格審査を行いますので、金沢大学Webサイトの「金沢大学入学資格審査申請要領」により申請してください。

（金沢大学（入試情報）Webサイト <http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/sinsa/>）

※ 大学入試センター試験において、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目を受験しなければ、個別学力検査等を受験できません。

〔参考〕学校教育法施行規則第150条

学校教育法第90条第1項の規定により、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 1 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 2 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 3 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 4 文部科学大臣の指定した者
- 5 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- 6 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- 7 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

3 入学者選抜の実施教科・科目等

【留意事項】

1. 教科，科目名は，次のとおりカッコ内の語を略記しています。

国 語……国（国語），国総（国語総合）

地理歴史……地歴（地理歴史），世A（世界史A），日A（日本史A），世B（世界史B），日B（日本史B）

公 民……現社（現代社会），倫（倫理），政経（政治・経済），倫・政経（倫理，政治・経済）

数 学……数（数学），数Ⅰ（数学Ⅰ），数Ⅱ（数学Ⅱ），数Ⅲ（数学Ⅲ），数A（数学A），数B（数学B），簿（簿記・会計），情報（情報関係基礎）

理 科……理（理科），物基（物理基礎），化基（化学基礎），生基（生物基礎），地基（地学基礎）

外国語……外（外国語），英（英語），コ英Ⅱ（コミュニケーション英語Ⅱ），コ英Ⅲ（コミュニケーション英語Ⅲ），英表Ⅰ（英語表現Ⅰ），英表Ⅱ（英語表現Ⅱ），独（ドイツ語），仏（フランス語），中（中国語），韓（韓国語）

2. 大学入試センター試験の「数学」のうち，「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

3. 大学入試センター試験の「理科」のうち，「基礎を付した科目」（「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」，「地学基礎」）から2科目を選択するように指定している学類の中で，**人文学類，法学類，経済学類，国際学類**においては，「基礎を付していない科目」（「物理」，「化学」，「生物」，「地学」）から2科目を選択した場合，**基礎を付した2科目を選択したものと見なし，合計得点（200点満点）を100点満点に換算して利用します。**

4. 個別学力検査の「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」，「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」，「地学基礎・地学」の出題範囲については，次のとおりです。

「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」……それぞれの全範囲を出題範囲とします。

「数学B」……「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

「物理基礎・物理」……「物理基礎」及び「物理」の全範囲から出題します。

「化学基礎・化学」……「化学基礎」及び「化学」の全範囲から出題します。

「生物基礎・生物」……「生物基礎」及び「生物」の全範囲から出題します。

「地学基礎・地学」……「地学基礎」及び「地学」の全範囲から出題します。

5. 個別学力検査の「独（ドイツ語）」，「仏（フランス語）」，「中（中国語）」は，リスニングテストを課します。

6. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1) 配点に※印を付してある教科は，選択教科を表します。

(2) 大学入試センター試験で，指定した教科・科目数を超えて受験している場合は，指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし，**『「地理歴史」「公民』の受験科目**を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び**「理科」の受験科目**を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は，それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。（**第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格**となります。）

（大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合，解答順に前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

(3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については，2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(4) 医薬保健学域医学類及び薬学類・創薬科学類の個別学力検査の「理科」2科目については，2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(5) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており，成績は，筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し，他の外国語と比較できるようにして利用します。

なお，大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については，「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また，入学者選抜の配点にあたっては，学域学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。

7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について

大学入試センター試験の「英語」について、以下の表に○で示す学類等においては、外部試験のスコアの提出を認め、TOEFL-iBT：45～68, IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：3.0～6.0, GTEC-CBT：820～1100, TEAP：246～304の場合は、大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を、外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT：68以上, IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：6.0以上, GTEC-CBT：1100以上, TEAP：304以上の場合は、大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし、大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

〈上記の外部試験のスコアの提出を認める試験区分〉

学 域	学 類	前期日程	後期日程
人間社会学域	人文学類	○	○
	法学類	—	—
	経済学類	○	
	学校教育学類	○	
	地域創造学類	○	○
	国際学類	○	○
理工学域	数物科学類	—	○
	物質化学類	—	○
	機械工学類		
	フロンティア工学類（仮称）	—	
	電子情報通信学類（仮称）		
	地球社会基盤学類（仮称）	—	○
	生命理工学類（仮称）	—	
医薬保健学域	医学類	—	
	薬学類・創薬科学類	—	
	保健学類	○	○
文系後期一括, 理系後期一括			○

（注）— は外部試験を利用しない学類です。

8. 大学入試センター試験で、志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。

また、個別学力検査等で、志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ**失格**となります。

9. 2段階選抜の実施

医薬保健学域医学類については、**志願者数が募集人員に対する予告倍率(3.5倍程度)を超えた場合**には、大学入試センター試験の教科・科目の配点による成績の総得点により第1段階選抜を行うことがあります。その場合は、第1段階選抜合格者についてのみ第2段階選抜を実施します。

10. 各学域学類等の内容が表示してある表の下にも「注意事項」が書いてありますので、必ず参照してください。

学域・学類等名 及び入学定員等 (*後期一括入試 からの移行人数)	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の 選抜方法 等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		小論文	面接・ 口試課題	配点 合計
人間社会 学域 725人 前期 492 後期一括* 87 後期一括* 62 推薦 84	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科8科目]又は[6教科8科目]	国 外	国総 コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※300 (150×2)	200	100	200			1000	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
							個別学力 検査等	300				300			600		
	計	500	300	200	100	500			1600								
	前期 100 後期 32 後期一括* 13	後期 3月12日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数A, 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [3教科3科目]又は[3教科4科目]	そ 他	小論文(広く人間・社会・ 歴史・文化・言語に 関する課題を示して論述 させます。)	—	センター 試験	100	※100(100×1)			100			300	
								個別学力 検査等					300			300	
	計	100	100			100	300		600								
	法学類 170人 前期 115 後期 30 後期一括* 15 推薦 10	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理Bから1又は2 }から2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 } 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科8科目]又は[6教科8科目]	国 外	国総 コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	200	100	250			950	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充
								個別学力 検査等	300				300			600	
		計	500	200	200	100	550			1550							
		後期 3月12日	数 外	数I・数II・数A・数B コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	200	100	250			950			
個別学力 検査等							300		300			600					
計	200	200	500	100	550			1550									
前期 3月12日	そ 他	小論文(広く社会・文化 に関する課題を示して論 述させます。)	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	200	100	250			950					
				個別学力 検査等					600			600					
				計	200	200	200	100	250	600		1550					
経済学類 135人 前期 110 後期一括* 15 推薦 10	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理Bから1又は2 }から2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 } 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英(注5), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科8科目]又は[6教科8科目]	数 外	数I・数II・数A・数B コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	200	100	250			950	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
							個別学力 検査等				300		300				600
							計	200	200	500	100	550			1550		

学域・学類等名及び入学定員等 (*後期一括入試からの移行人数)	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等				
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	小論文	面接・口述試験	配点合計
人間社会学域	学校教育学類 100人 前期 64 後期一括* 2 推薦 34 前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外 パターンA	国語 世B, 日B, 地理Bから1又は2 } から2 (注6) 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 } 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注7), 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	国 数 理 外	国総 数I・数II・数A・数B } から1 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 コ英II・コ英III・英表I・ 英表II	—	センター試験	パターンA	200	※200 (100×2)	200	100	200			900	推薦 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充
								パターンB	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	
								個別学力検査等	※300		※300	※300	300			600	
								パターンA 国語選択 (個別)	500	200	200	100	500			1500	
								パターンA 数学選択 (個別)	200	200	500	100	500				
		パターンA 理科選択 (個別)	200	200	200	400	500										
		パターンB 国語選択 (個別)	500	100	200	200	500										
		パターンB 数学選択 (個別)	200	100	500	200	500										
		パターンB 理科選択 (個別)	200	100	200	500	500										
		国 地歴 公民 数 理 外 パターンB	国語 世B, 日B, 地理B } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注7), 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕	国 数 理 外	国総 数I・数II・数A・数B } から1 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 コ英II・コ英III・英表I・ 英表II	—	計	センター試験	パターンA 国語選択 (個別)	500	200	200	100	500			
パターンA 数学選択 (個別)	200								200	500	100	500					
パターンA 理科選択 (個別)	200								200	200	400	500					
パターンB 国語選択 (個別)	500								100	200	200	500					
パターンB 数学選択 (個別)	200								100	500	200	500					
パターンB 理科選択 (個別)	200	100	200	500	500												

【人文学類】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【人文学類(後期日程)] 注意事項

大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目が指定した科目以外の場合は、『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目の成績は利用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績を利用します。ただし、「理科」については、「基礎を付した科目」2科目の合計得点を利用します。

(注2) 大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』, 「数学」, 「理科」から2科目となるのは、「理科」から「基礎を付した科目」2科目又は「基礎を付していない科目」2科目の場合のみです。

【法学類】 注意事項

(注3) 大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。
『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』

【経済学類(前期日程)] 注意事項

(注4) 大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。
『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』

(注5) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【学校教育学類(前期日程)] 注意事項

- 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせず選択することはできません。
- 『「地理歴史」「公民」』と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目, 「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
- 『「地理歴史」「公民」』と「理科」で4科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」』2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- パターンAにおける大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。
『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』
- 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等名及び入学定員等 (*後期一括入試からの移行人数)	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の選抜方法等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		小論文	面接・口述試験	配点合計
人間社会学域	地域創造学類 90人 前期 55 後期 10 後期一括* 10 推薦 15	前期 2月25日	国内 地歴 公民 数 国語 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B }から2 現社,倫,政経,倫・政経 数I・数Aと 数II・数B,簿,情報から1 又は 物理,化学,生物,地学から1 英(注1),独,仏,中,韓から1	国外 数 国総 数I・数II・数A・数B コ英II・コ英III・英表 I・英表II,独から1 }から2	—	センター試験	パターンA	200	※200 (100×2)	200	100	250				950	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充
							パターンB	200	※100 (100×1)	200	200	250				950	
							個別学力検査等	※200		※200		※200				400	
			パターンA 国語 数学 選択(個別)	400			200	400	100	250					1350		
			パターンA 国語 外国語 選択(個別)	400			200	200	100	450							
			パターンA 数学 外国語 選択(個別)	200			200	400	100	450							
		パターンB 国語 数学 選択(個別)	400	100	400	200	250										
		パターンB 国語 外国語 選択(個別)	400	100	200	200	450										
		パターンB 数学 外国語 選択(個別)	200	100	400	200	450										
		後期 3月12日	国内 地歴 公民 数 国語 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B }から1 現社,倫,政経,倫・政経 数I・数Aと 数II・数B,簿,情報から1 物理,化学,生物,地学から2と 物理,化学,生物,地学から1 又は 物理,化学,生物,地学から2 英(注1),独,仏,中,韓から1	その他 小論文(広く地域・社会・文化に対する課題を示して論述させます。)	—	センター試験	センター試験	※200(100×2)								200	
個別学力検査等														400	400		
計	200								400	600							
国語 世B,日B,地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B,簿,情報から1 物理,化学,生物,地学から2 英(注3),独,仏,中,韓から1	[2教科2科目]又は[2教科3科目]						—	センター試験	センター試験	200	※200 (100×2)	200	100	200			
個別学力検査等		300				300						600					
計		500	200	200	100	500					1500						
国語 世B,日B,地理B }から2 倫・政経 英(注3),独,仏,中,韓から1		[3教科4科目]又は[4教科4科目]	—	センター試験	センター試験	200			※200 (100×2)				200			600	
個別学力検査等								600		600							
計	200				200			200	600	1200							

【地域創造学類】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【地域創造学類 (前期日程)】 注意事項

- (1) 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- (2) パターンAの、『「地理歴史」「公民」』の2科目について、同一名称を含む科目(例えば「地理A」と「地理B」, 「倫理」と「倫理, 政治・経済」)を組み合わせて選択することはできません。
- (3) パターンBの, 「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせて選択することはできません。
- (4) 『「地理歴史」「公民」』と「理科」で5科目受験している場合(つまり, 『「地理歴史」「公民」』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目), 以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目, 「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち, 得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」を利用した場合は3科目)
- (5) 『「地理歴史」「公民」』と「理科」で4科目受験している場合(つまり, 『「地理歴史」「公民」』2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目), 以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

【地域創造学類 (後期日程)】 注意事項

大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』については、第2解答科目の成績は利用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績を利用します。ただし、「理科」については、「基礎を付した科目」2科目の合計得点又は「基礎を付していない科目」の第1解答科目の得点のうち、いずれか得点の高い成績を利用します。

(注2) {「国語」, 『「地理歴史」「公民」』, 「数学」, 「理科」, 「外国語」} から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。

【国際学類】 注意事項

(注3) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等名 及び入学定員等 (*後期一括入試 からの移行人数)	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計
理工学域 614人 前期 499 後期 42 後期一括* 73	数物科学類 84人 前期 64 後期 12 後期一括* 8	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学 から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充
			理 外	(5教科7科目)												900	
			計	200		100		650	550	300			1800				
	前期 64 後期 12 後期一括* 8	後期 3月12日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1	数 理	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	
			理 外	(5教科7科目)											600		
			計	200		100		500	500	200			1500				
	物質化学類 81人 前期 55 後期 18 後期一括* 8	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 化基・化学 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充
			理 外	(5教科7科目)											1200		
			計	200		100		600	600	600			2100				
	前期 499 後期 42 後期一括* 73	後期 3月12日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1	理	化基・化学	—	センター 試験	50	※50 (50×1)	100	100	100			400	
			理 外	(5教科7科目)											400		
			計	50		50		100	500	100			800				
機械工学類 100人 3学類前期一括 90 後期一括* 10	前期 2月25日 (3学類前 期一括) (注3)	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
		理 外	(5教科7科目)												1300		
		計	200		100		700	600	600			2200					
フロンティア 工学類(仮称) 110人 3学類前期一括 90 後期一括* 20	前期 2月25日 (3学類前 期一括) (注3)	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
		理 外	(5教科7科目)												1300		
		計	200		100		700	600	600			2200					
電子情報通信 工学類(仮称) 80人 3学類前期一括 72 後期一括* 8	前期 2月25日 (3学類前 期一括) (注3)	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
		理 外	(5教科7科目)												1300		
		計	200		100		700	600	600			2200					

学域・学類等名 及び入学定員等 (*後期一括入試 からの移行人数)	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等				
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計	
理工学域	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	100	※100 (100×1)		250	250	200			900	帰国子女 バカロレア 外国人 追加合格 欠員補充	
							個別学力 検査等					300	300	300				900
							計	100	100		550	550	500			1800		
	後期 3月12日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注4), 独, 仏, 中, 韓から1	数	数I・数II・数III・数 A・数B	—	センター 試験	50	※50 (50×1)		200	200	200			700		
							個別学力 検査等					300			300			
							計	50	50		500	200	200			1000		
生命理工学類 (仮称) 59人 前期 50 後期一括* 9	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)		200	200	200			900		
							個別学力 検査等					300	300	300			900	
							計	200	100		500	500	500			1800		

【数物科学類（後期日程）】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【物質化学類（後期日程）】 注意事項

(注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【機械工学類, フロンティア工学類（仮称）, 電子情報通信学類（仮称）（前期日程）】 注意事項

(注3) 機械工学類, フロンティア工学類（仮称）, 電子情報通信学類（仮称）の前期日程の選抜は、一括して実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。

出願時に所属を希望する学類がある場合は1つだけ申請することができます（優先配属の申請）。優先配属は入試成績により決定されます。ただし、優先配属となった場合でも、2年進級時に優先配属を辞退して、他の2学類を再希望することができます。

【地球社会基盤学類（仮称）（後期日程）】 注意事項

(注4) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等名 及び入学定員等 (*後期一括入試 からの移行人数)	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の 選抜方法 等											
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	小論文	面接・ 口述試験	配点 合計							
医学類 107人 前期 84 後期一括* 1 推薦 22	前期 2月25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理と化基・化学 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ 面接(勉学意欲と資質等 を判断するための多面的 試問を行います。)	3.5 倍 程 度	センター 試 験	100	※50 (50×1)	100	100	100				450	推薦 帰国子女 外国人							
							個別学力 検 査 等				200	200	200		100		700	追加合格 欠員補充						
							計	100	50	300	300	300		100		1150								
	薬学類 創薬科学類 75人 前期 64 A O 9 [薬学類3, 創薬科学類6] 後期一括* 2 (創薬科学類)	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理と化基・化学 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	100	※100 (100×1)	200	200	200				800	AO 帰国子女 バカロレア 外国人						
								個別学力 検 査 等				300	600	300			1200	追加合格 欠員補充						
								計	100	100	500	800	500		2000									
	医薬保健 学域 382人 前期 290 後期 17 後期一括* 9 推薦 57 AO 9	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	理 外	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人						
								個別学力 検 査 等				400	400			800	追加合格 欠員補充							
								計	200	100	200	600	600		1700									
								後期 3月12日	理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人
														個別学力 検 査 等				200	200		200	200	400	400
														計	200	100	200	200	200		200	200	1100	
前期 2月25日		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	100	※100 (100×1)	200	400	200					1000	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人						
							個別学力 検 査 等				200	200	200			600	400							
							計	100	100	400	600	400		1600										
							後期 3月12日	理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	100	※100 (100×1)	200	400	200				1000	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人	
													個別学力 検 査 等							400	400			
													計	100	100	200	400	200		400	400	1400		
前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200					900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人							
						個別学力 検 査 等				200	200	200			600	400								
						計	200	100	400	400	400		1500											
						後期 3月12日	理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人		
												個別学力 検 査 等							200	200				
												計	200	100	200	200	200		200	1100				
前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	理 外	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人								
						個別学力 検 査 等				400	400			800	追加合格 欠員補充									
						計	200	100	200	600	600		1700											
前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	理 外	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試 験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 バカロレア 外国人								
						個別学力 検 査 等				400	400			800	追加合格 欠員補充									
						計	200	100	200	600	600		1700											

【保健学類】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコア提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		総合 問題	面接・ 口述試験	配点 合計
文系後期一括 62人	後期 3月12日	国 地歴 公民 数理 外	国語 世B, 日B, 地理Bから1 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数I・数Aと数II・数B 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注2) 〔3教科3科目〕, 〔3教科4科目〕 又は〔3教科5科目〕	その他 総合問題(英文を含む場 合があります)	—		センター 試験	※200(100×2)					200			400	追加合格 欠員補充
							個別学力 検査等							300		300	
							計	200					200	300		700	
理系後期一括 82人	後期 3月12日	数 外	数I・数Aと数II・数B 英(注3) 〔2教科3科目〕	理 物基・物理, 化基・化学 から1	—		センター 試験				100	100		200	追加合格 欠員補充		
							個別学力 検査等					300		300			
							計				100	300	100	500			

【文系後期一括】 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験において, {「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」} から3科目となるのは, 「数学」2科目と他教科1科目又は「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科1科目の場合のみです。また, {「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」} から4科目となるのは, 「数学」2科目と「理科」の「基礎を付した科目」2科目の場合のみです。
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については, 外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は, 17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【理系後期一括】 注意事項

- (注3) 大学入試センター試験の「英語」については, 外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は, 17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

5 推薦入試

1 推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)

(1) 推薦要件, 入学者選抜方法等

実施学域・学類等名	人間社会学域 経済学類	
募集人員	10人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)の専門教育を主とする学科又は総合学科で専門教育に関する各教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む)して平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次のすべての要件を満たすもの</p> <p>(1) 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)における学習成績概評がA段階以上(評定平均4.3以上)に該当する者</p> <p>(2) 出身学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき2名以内とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類(調査書、推薦書、志願理由書)等により総合して行います。小論文は以下の小論文Iと小論文IIからなります。</p> <p>小論文I：推薦入試I(小論文I実施日)前日から過去5年間に発行された <i>Economist</i>, <i>Fortune</i>に掲載された英文の記事や論説から出題し、出題された論題について800字程度で論述させます。なお、英和辞典を貸与します。</p> <p>小論文II：現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。</p> <p>3. 配点</p> <p>小論文I 100点</p> <p>小論文II 100点</p> <p>面 接 100点</p>

実施学域・学類等名	人間社会学域 国際学類	
募集人員	15人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、出身学校長が責任を持って推薦できるもの</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき1名とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 第1次選考 提出書類(調査書、推薦書、志願理由書、外部試験のスコア)によって総合的に判定します。 外部試験—TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAPのいずれか</p> <p>3. 第1次選考結果は、平成29年11月16日(木)に本人あて通知します。</p> <p>4. 第2次選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。 なお、調査書は面接の参考とします。</p> <p>5. 合否判定 第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。</p>

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 看護学専攻	
募集人員	15人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>2. 学業成績が優秀、人物に優れ、看護学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき1名とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 選抜は、小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。 小論文—健康に関するテーマについて800字以内で論述させます。</p> <p>3. 配点 小論文 100点 面接(調査書、推薦書、志願理由書等を含む) 100点</p>

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 作業療法学専攻	
募集人員	5人	
	推薦要件	選抜方法等
	<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <p>1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>2. 学業成績が優秀、人物に優れ、作業療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>3. 合格した場合、入学することを確約できる者</p> <p>4. 推薦は、1校につき1名とします。</p>	<p>1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。</p> <p>2. 選抜は、小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。 小論文—人間・医療に関する科学的思考について800字以内で論述させます。</p> <p>3. 配点 小論文 100点 面接(調査書、推薦書、志願理由書等を含む) 100点</p>

(2) 出願期間

平成29年11月1日(水)～平成29年11月7日(火)

(3) 選抜期日

人間社会学域(経済学類)：小論文 平成29年11月25日(土)

面接 平成29年11月26日(日)

人間社会学域(国際学類)：第2次選考 平成29年11月25日(土)

医薬保健学域(保健学類)：平成29年11月25日(土)

(4) 合格者発表

平成29年12月6日(水)

(5) その他

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち、一般入試(前期日程、後期日程)で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で、所要の手続きにより一般入試(前期日程、後期日程)に出願を行ったものに限り、一般の入学志願者と同様に一般入試(前期日程、後期日程)の個別学力検査等を受験することができます。

② 原則として、入学後の転学類・転専攻を認めません。

2 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

(1) 推薦要件，入学者選抜方法等

【留意事項】

1. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1) 配点に※印を付してある教科は，選択教科を表します。

(2) 大学入試センター試験で，指定した教科・科目数を超えて受験している場合は，指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし，『**地理歴史**』『**公民**』の**受験科目**を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び**理科**の**受験科目**を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は，それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。（第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。）

（大学入試センター試験の『**地理歴史**』『**公民**』及び**理科②**）の試験時間において2科目を選択する場合，解答順に前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

(3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については，2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(4) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており，成績は，筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し，他の外国語と比較できるようにして利用します。

なお，大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については，「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また，入学者選抜の配点にあたっては，学域学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。

(5) 大学入試センター試験の「英語」について，法学類，学校教育学類，地域創造学類，保健学類の推薦入試Ⅱにおいては，外部試験のスコアの提出を認め，TOEFL-iBT：45～68，IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：3.0～6.0，GTEC-CBT：820～1100，TEAP：246～304の場合は，大学入試センター試験の「英語」の得点の80％から100％の得点を，外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT：68以上，IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：6.0以上，GTEC-CBT：1100以上，TEAP：304以上の場合は，大学入試センター試験の「英語」の100％の得点を与えます。ただし，大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。外部試験のスコアを提出する場合であっても，大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

また，医学類の推薦入試Ⅱにおいては，外部試験（TOEFL-iBT，IELTS（アカデミック・モジュール），GTEC-CBT，TEAP）のスコアの提出を認め，CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に，大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく，総合評価に反映させます（C1相当以上のスコアとは，TOEFL-iBT：95-120，IELTS：7.0以上，GTEC-CBT：1400，TEAP：400に相当します）。選抜は，大学入試センター試験の成績，口頭試問による面接の結果及び提出書類等（調査書，推薦書，志願理由書，外部試験のスコア）を総合して行います。ただし，外部試験の受験は出願資格ではありません。

なお，外部試験のスコアを提出する場合であっても，大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

2. 大学入試センター試験の「数学」のうち「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者に限ります。

3. 大学入試センター試験で，志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ，個別学力検査等を受験することはできません。

また，個別学力検査等で，志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ**失格**となります。

4. 各学域学類等の内容が表示してある表の下にも「注意事項」が書いてありますので，必ず参照してください。

実施学域・学類等名		人間社会学域 法学類																
募集人員		10人																
推薦要件										選抜方法								
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。								
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等			教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [4教科5科目]			その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)	100			125						425
						個別学力検査等									400		400	
						計	100	100	100			125		400		825		

【法学類(推薦入試Ⅱ)】 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名		人間社会学域 学校教育学類 [石川県教員希望枠]															
募集人員		8人															
推薦要件										選抜方法							
<p>以下の1から4のすべての条件を満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの <ol style="list-style-type: none"> 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 出身学校長が人物・能力等、特に教育職員に就くにふさわしい資質・適性について責任を持って推薦できる者 合格した場合、入学することを確約できる者 卒業後、石川県内の学校園に教員として勤務する強い意志を持つ者 <p>※学校教育学類[石川県教員希望枠]の入学後の各専修への配属は、一般入試と同様に2年進級時に決定します。</p>										<p>選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。</p> <p>なお、本学類が課す大学入試センター試験の成績(500点満点)の得点が概ね375点(75%)以上を合格の基準とします。</p>							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科6科目] 又は [5教科7科目]		その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100	100	100						500
					個別学力検査等									300		300	
					計	100	100	100	100	100			300		800		

【学校教育学類(推薦入試II)】 [石川県教員希望枠] 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 国語・社会科・英語教育専修																
募集人員	3人																
推薦要件										選抜方法							
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。 ※学校教育学類[専修枠]国語・社会科・英語教育専修の入学後の各専修への配属は、2年進級時に決定します。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B から1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から1 } (注1) 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物理、化学、生物、地学から1 英(注2)、独、仏、中、韓から1		その他	面接	センター試験	200	※200(100×2)		100	100	200						800
					個別学力検査等									300		300	
					計	200	200	100	100	200			300		1100		
		[5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]															

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 国語・社会科・英語教育専修 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。

『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』

(注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 数学・理科教育専修															
募集人員	3人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。 ※学校教育学類[専修枠]数学・理科教育専修の入学後の各専修への配属は、2年進級時に決定します。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1	その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	100						700
				個別学力検査等								300		300		
	又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]			計	100	100	200	200	100			300		1000		

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 数学・理科教育専修 注意事項

大学入試センター試験の「理科」のうち、「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修															
募集人員	4人															
推薦要件										選抜方法等						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、実技、筆記、面接の結果及び提出書類等(音楽活動実績書、調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 実 技 新曲視唱 50点 声楽 ピアノ } から1つを選択 300点 作曲 筆 記 楽 典 50点 面 接 100点						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 外	国語 英(注1) [2教科2科目]		その他	実技 筆記 面接	センター試験	100					100					200
					個別学力検査等								50	100	350	500
					計	100					100		50	100	350	700

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ) [専修枠] 音楽教育専修 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 美術教育専修																
募集人員	3人																
推薦要件										選抜方法							
以下の1から3のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 特に美術に優れ、美術教育に熱意を有し、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										選抜は、大学入試センター試験の成績、実技、面接(作品提出を含む)の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 実 技——デッサン(用具として、鉛筆、消しゴム及びデッサン用具を持参してください。) 提出作品——自作による美術作品1点以上。分野、作品の大きさは自由とし、面接時に持参できるものとします。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 外 地歴 公民 数 理	国語 英(注1)、独、仏、中、韓から1 } から1 世B、日B、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 数Ⅰ・数Ⅱと } から1 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } 又は2 物基、化基、生基、地基から2 } (注2) 又は 物理、化学、生物、地学から1 } [2教科2科目] 又は [2教科3科目]		その他	実技 面接 (作品提出を含む)	センター試験	※200	※200(200×1)				※200						400
					個別学力検査等									200	400		600
					計	※200	200				※200			200	400		1000

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 美術教育専修 注意事項

大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目が指定した科目以外の場合は、『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目の成績は利用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績(「理科」の「基礎を付していない科目」については第1解答科目の成績)を利用します。ただし、「理科」については、「基礎を付した科目」2科目の合計得点又は「基礎を付していない科目」の第1解答科目の得点のうち、いずれか得点の高い成績を利用します。

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

(注2) 大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』、「数学」、「理科」から2科目となるのは、「数学」2科目又は「理科」の「基礎を付した科目」2科目の場合のみです。

実施学域・学類等名		人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 保健体育専修														
募集人員		5人														
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が、次のいずれにも該当すると認め、責任を持って推薦できる者 (1) 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者 (2) 高等学校若しくは中等教育学校において、スポーツ活動(ダンスを含む)に積極的に取り組み、優れた能力を持つ者で、かつ、入学後も活動を続ける意思のあるもの (3) 人物及び学業成績がともに優れ、本学類(保健体育専修)に対する明確な志向と勉学の熱意を持つ者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接及びスポーツ活動実績書の結果を総合して行います。 なお、調査書、推薦書、志願理由は、判定の基礎資料とします。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
パターンA	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から1 } (注1) 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物理、化学、生物、地学から1 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]	その他	面接 (スポーツ 活動実績 評価を含 む)	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)	200	100	200					900
					センター試験	パターンB	200	※100(100×1)	200	200	200					900
パターンB	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2と 物理、化学、生物、地学から1 又は 物理、化学、生物、地学から2 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]			個別学力検査等											
					計	パターンA	200	200	200	100	200			500		500
					パターンB	200	100	200	200	200	200			500		1400

【学校教育学類(推薦入試II)】 [専修枠] 保健体育専修 注意事項

- 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - パターンBの「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 - 「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合(つまり、「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 「地理歴史」「公民」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
 - 「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合(つまり、「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - 「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 「地理歴史」「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) パターンAにおける大学入試センター試験において、「地理歴史」「公民」は、次のいずれかの組合せとします。
 「地理歴史」から2科目又は「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名		人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 家政教育専修																
募集人員		3人																
推薦要件										選抜方法								
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。								
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科		科目名等		教科等	科目名等	試験の区分		国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
パターンA	国	国語 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から1 } (注1) 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1	その他	面接	センター試験	パターンA		200	※200(100×2)		200	100	200					900
	理					パターンB		200	※100(100×1)		200	200	200					
外	物理、化学、生物、地学から1 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]				個別学力検査等											300		300
パターンB	国	国語 世B、日B、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1			計	パターンA		200	200		200	100	200					1200
	理		物理、化学、生物、地学から2と 物理、化学、生物、地学から1			パターンB		200	100		200	200	200					
外	物理、化学、生物、地学から2 英(注2)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]																	

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 家政教育専修 注意事項

- (1) 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - (2) パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 - (3) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - ② 『「地理歴史」「公民」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
 - (4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) パターンAにおける大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。
『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 [専修枠] 特別支援教育専修															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当し、特別支援教育に熱意を有する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科6科目] 又は [5教科7科目]		その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100	100	100					500
					個別学力検査等									300		300
					計	100	100		100	100	100			300		800

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 [専修枠] 特別支援教育専修 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名		人間社会学域 地域創造学類 福祉マネジメントコース													
募集人員		5人													
推薦要件										選抜方法					
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、福祉マネジメントコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。					
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 外	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 英(注1) [3教科3科目]	その他	面接	センター試験	200	※100(100×1)									500
				個別学力検査等								500		500	
				計	200	100						200		500	

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 福祉マネジメントコース 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 環境共生コース															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、環境共生コースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 から1 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報 から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1 [2教科2科目]又は[2教科3科目]		その他	面接	センター試験	※200(100×2)										200
					個別学力検査等									400		400
					計	200							400		600	

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 環境共生コース 注意事項

(注1) 大学入試センター試験において、{「国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」、「外国語」}から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。

(注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名		人間社会学域 地域創造学類 地域プランニングコース														
募集人員		5人														
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、人物及び学業成績が優秀で、地域プランニングコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 なお、調査書、推薦書は面接の際に参考とします。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
パターンA	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物理、化学、生物、地学から1 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]、[5教科8科目]、 [6教科7科目]又は[6教科8科目]	その他	面接	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)		200	100	200				900
						パターンB	200	※100(100×1)		200	200	200				900
パターンB	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2と 物理、化学、生物、地学から1 又は 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]			個別学力検査等											
					パターンA	200	200	200	100	200				400		400
					計	パターンB	200	100	200	200	200			400		1300

【地域創造学類(推薦入試II)】 地域プランニングコース 注意事項

- ① 「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - ② パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 - ③ 「『地理歴史』『公民』と『理科』で5科目受験している場合(つまり、『地理歴史』『公民』2科目+『理科』の「基礎を付した科目」2科目+『理科』の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 「『地理歴史』『公民』」の第1解答科目
 - ② 「『地理歴史』『公民』」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目)
 - ④ 「『地理歴史』『公民』と『理科』で4科目受験している場合(つまり、『地理歴史』『公民』2科目+『理科』の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 「『地理歴史』『公民』」の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 「『地理歴史』『公民』及び『理科』」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 医学類 [一般枠]															
募集人員	15人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評が④段階(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 ただし、志願者数が募集人員に対して2倍程度を超えた場合には、 <u>大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。</u> その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、平成30年2月1日(木)に本人あて通知します。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理と化学 英 [5教科7科目]	その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200						800
				個別学力検査等									200		200	
				計	100	100	200	200	200		200		1000			

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 [一般枠] 注意事項

- 推薦要件の「④」とは、高等学校又は中等教育学校における学習成績概評がA段階(全体の評定平均値5.0~4.3)に属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者です。この場合、調査書に④と標示し、「備考」の欄にその理由を明示してください。
- 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験(TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAP)のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます(C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT:95-120, IELTS:7.0以上, GTEC-CBT:1400, TEAP:400に相当します)。
選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書、外部試験のスコア)を総合して行います。ただし、外部試験の受験は出願資格ではありません。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 医学類 [特別枠]															
募集人員	石川県枠5人(注) 富山県枠2人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評が④段階(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者										1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 ただし、志願者数が募集人員に対して3倍程度を超えた場合には、大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。 その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、平成30年2月1日(木)に本人あて通知します。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物理と化学 英 [5教科7科目]		その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200					800
					個別学力検査等									200		200
					計	100	100		200	200	200			200		1000

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 [特別枠(石川県枠・富山県枠)] 注意事項

- (1) 推薦要件の「④」とは、高等学校又は中等教育学校における学習成績概評がA段階(全体の評定平均値5.0~4.3)に属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者です。この場合、調査書に④と標示し、「備考」の欄にその理由を明示してください。
- (2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験(TOEFL-iBT, IELTS(アカデミック・モジュール), GTEC-CBT, TEAP)のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます(C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT:95-120, IELTS:7.0以上, GTEC-CBT:1400, TEAP:400に相当します)。
選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書、外部試験のスコア)を総合して行います。ただし、外部試験の受験は出願資格ではありません。

※石川県枠について

1. 将来、石川県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
2. 出身高校の所在地に関わらず、石川県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、石川県知事からの推薦があり、入学後は、石川県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、石川県知事が貸与生ごとに指定する石川県内の医療機関において、7年間診療に従事することになります。
(注) 石川県枠の募集人員については、増員となる可能性があります。詳細は、11月頃に金沢大学(入試情報)Webサイト(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/>)にてお知らせします。

※富山県枠について

1. 将来、富山県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
2. 出身高校の所在地に関わらず、富山県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、富山県知事からの推薦があり、入学後は、富山県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、富山県知事が貸与生ごとに指定する富山県内の医療機関において、地域医療に必要な診療科(小児科、小児外科、産科、麻酔科、救急科、総合診療科)で9年間診療に従事することになります。

特別枠(石川県枠、富山県枠)で不合格であっても、予め、一般枠を第2志望とした者については、一般枠の選考対象とします。
なお、石川県枠と富山県枠の併願は認められません。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 放射線技術科学専攻															
募集人員	5人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、放射線技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書、推薦書、志願理由書を含む)	センター試験	100	※100(100×1)		200	400	200					1000
					個別学力検査等									400		400
					計	100	100		200	400	200			400		1400

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】放射線技術科学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 検査技術科学専攻															
募集人員	6人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、検査技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英(注1)、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書、推薦書、志願理由書を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
					個別学力検査等									200		200
					計	200	100		200	200	200			200		1100

【保健学類(推薦入試Ⅱ)】 検査技術科学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 理学療法学専攻															
募集人員	4人															
推薦要件										選抜方法						
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、理学療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。						
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英(注1), 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]		その他	面接 (調査書, 推薦書, 志願理由書 を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
					個別学力検査等									600		600
					計	200	100		200	200	200			600		1500

【保健学類(推薦入試Ⅱ) 理学療法学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

(2) 出願期間

人間社会学域（法学類，学校教育学類，地域創造学類），医薬保健学域（医学類，保健学類）

平成29年12月11日（月）～平成29年12月15日（金）

(3) 選抜期日

人間社会学域（法学類，学校教育学類，地域創造学類），医薬保健学域（保健学類）：平成30年1月27日（土）

医薬保健学域（医学類）：第2次選考 平成30年2月5日（月）

(4) 合格者発表

人間社会学域（法学類，学校教育学類，地域創造学類），医薬保健学域（保健学類）：平成30年2月5日（月）

医薬保健学域（医学類）：第2次選考 平成30年2月7日（水）

(5) その他

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち，一般入試（前期日程，後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で，所要の手続きにより一般入試（前期日程，後期日程）に出願を行ったものに限り，一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程，後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

② 原則として，入学後の転学類・転専攻等を認めません。

6

帰国子女入試

1 出願資格

日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により保護者ととも外国に在留し、外国で学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当するもの

- (1) 外国の教育制度に基づく教育機関において12年の課程のうち、日本の高等学校に相当する学校に最終学年を含め2学年以上継続して在学し、平成28年4月から平成30年3月までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者
- (2) 外国の教育制度に基づく教育機関において2学年以上継続して学校教育を受け、引き続き、日本の高等学校若しくは中等教育学校後期課程の第3学年に編入学した者で平成30年3月までに卒業見込みのもの
- (3) 外国において、日本の高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り。）で文部科学大臣が別に指定するものを、最終学年を含め2学年以上継続して在学し、平成28年4月から平成30年3月までに修了した者及び修了見込みの者
- (4) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成28年4月以降に授与された者で平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- (5) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年4月以降に取得した者で平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- (6) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年4月以降に取得した者で平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- (7) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCE Aレベル）資格を平成28年4月以降に取得した者で平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- (8) 外国において、国際的な評価団体（ウェスタン・アソシエーション・オブ・スクールズ・アンド・カレッジズ、アソシエーション・オブ・クリスチャン・スクールズ・インターナショナル又はカウンセル・オブ・インターナショナル・スクールズ）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を、最終学年を含めて2学年以上継続して在学し、平成28年4月から平成30年3月までに修了した者及び修了見込みの者で平成30年3月31日までに18歳に達するもの

- (注) 1. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程における教育の期間は、外国の教育制度に基づく教育機関における教育の期間には含みません。
2. 保護者の帰国に同伴せず、保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの滞在期間が1年以上経過した者は出願できません。
3. (7) については、GCE Aレベル（General Certificate of Education, Advanced Level）試験において本学が指定する科目数や評価を満たしていることが必要です。出願に必要な科目数や評価については、金沢大学（入試情報）Webサイト（<http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/>）を確認してください。

2 入学者選抜方法等

学域・学類等		募集人員	選抜方法等
人間社会学域	人文学類	若干名	1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合) 外(英(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ), 独, 仏, 中から1)
	法学類	若干名	1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書及び面接の結果を総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合)の内の現代文

学域・学類等		募集人員	選抜方法等
人間 社会 学域	経済学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書及び面接の結果を総合して行います。小論文は以下の小論文Ⅰと小論文Ⅱからなります。 小論文Ⅰ：帰国子女入試(小論文Ⅰ実施日)前日から過去5年間に発行された <i>Economist</i>、<i>Fortune</i> に掲載された英文の記事や論説から出題し、出題された論題について800字程度で論述させます。 なお、英和辞典を貸与します。 小論文Ⅱ：現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。
	地域創造学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 小論文：地域創造に関することを論述させます。
	国際学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 第1次選考 成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書の審査、外部試験の成績 外部試験：TOEFL-iBT、IELTS(アカデミック・モジュール)、GTEC-CBT、TEAPのいずれか 3. 第1次選考結果は、平成29年11月16日(木)に本人あて通知します。 4. 第2次選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。 なお、調査書は面接の参考とします。 5. 合否判定 第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。
理 工 学 域	数物科学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)
	物質化学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
	機械工学類 フロンティア工学類(仮称) 電子情報通信学類(仮称)	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学類・フロンティア工学類(仮称)・電子情報通信学類(仮称)の選抜は3学類一括で実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。 2. 大学入試センター試験を免除します。 3. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 4. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
	地球社会基盤学類(仮称)	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理、化基・化学、生基・生物、地基・地学から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
	生命理工学類(仮称)	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理、化基・化学、生基・生物から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

学域・学類等		募集人員	選抜方法等
医 薬 保 健 学 域	医学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
	薬学類・創薬科学類	若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ) 4. その他 薬学類(6年制)、創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
	保健学類	各専攻 若干名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 理(物基・物理、化基・化学、生基・生物から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
看護学専攻			
放射線技術科学専攻			
検査技術科学専攻			
理学療法学専攻			
作業療法学専攻			

3 出願期間

人間社会学域(経済学類, 国際学類): 平成29年10月23日(月)～平成29年10月27日(金)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域: 平成30年1月16日(火)～平成30年1月19日(金)

4 選抜期日

人間社会学域(経済学類): 小論文 平成29年11月25日(土)

面接 平成29年11月26日(日)

人間社会学域(国際学類): 第2次選考 平成29年11月25日(土)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域(保健学類): 平成30年2月25日(日)

医薬保健学域(医学類, 薬学類・創薬科学類): 平成30年2月25日(日)～平成30年2月26日(月)

5 合格者発表

人間社会学域(経済学類, 国際学類): 平成29年12月6日(水)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域: 平成30年3月7日(水)

7 国際バカロレア入試

1 募集人員

各学域学類とも若干名（医薬保健学域医学類については実施しない）

2 出願資格

次の（1）～（3）のいずれにも該当する者

（1）スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成30年（2018年）3月までに授与された者及び授与見込みの者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの

（2）国際バカロレア資格の取得において、次の①及び②に該当する者又は平成30年（2018年）3月までに該当する見込みの者

① 言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者

ただし、人文学類、法学類、経済学類、地域創造学類、国際学類においては、言語B（HL）を日本語により履修し、成績評価が4以上の者を含みます。

② 本学の指定する次表の科目を履修し、必要な成績評価を修めた者

学 域	学類・専攻	指定する科目等	
人間社会学域	人文学類	ディプロマスコア35以上	
	法学類	グループ3から1科目（HL成績評価4以上）	
	経済学類	指定なし	
	学校教育学類	グループ2～6から1科目（HL成績評価4以上）	
	地域創造学類	指定なし	
	国際学類	指定なし	
理工学域	数物科学類	数学（HL成績評価4以上）及び物理（HL成績評価4以上） 又は 数学（HL成績評価4以上）及び化学（HL成績評価4以上）	
	物質化学類	数学（HL成績評価4以上） 化学（HL成績評価4以上）	
	機械工学類 フロンティア工学類（仮称） 電子情報通信学類（仮称）	数学（HL成績評価4以上） 物理（HL成績評価4以上）	
	地球社会基盤学類（仮称）	数学（HL成績評価4以上）及び物理（HL成績評価4以上） 又は 数学（HL成績評価4以上）及び化学（HL成績評価4以上）	
	生命理工学類（仮称）	数学（HL成績評価4以上） 物理，化学，生物から1科目（HL成績評価4以上）	
医薬保健学域	薬学類・創薬科学類	数学（HL成績評価4以上） 物理（HL成績評価4以上） 化学（HL成績評価4以上）	
	保健学類	看護学専攻	物理，化学，生物から1科目（HL成績評価4以上）
		放射線技術科学専攻	
		検査技術科学専攻	
		理学療法学専攻	
	作業療法学専攻		

※HLはHIGHER LEVELを表す。

（3）本学での勉学を強く希望し、合格した場合には入学することを確約できる者

3 入学者選抜方法等

(1) 人文学類，法学類，学校教育学類，国際学類，理工学域のすべての学類及び薬学類・創薬科学類，保健学類

- ① 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
- ② 選抜は，提出書類等及び面接・口述試験の結果により総合して行います。
- ③ 機械工学類，フロンティア工学類（仮称），電子情報通信学類（仮称）の選抜は，3学類一括で実施します。各学類への所属は，2年進級時からとなります。
- ④ 薬学類（6年制），創薬科学類（4年制）の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。

(2) 経済学類，地域創造学類

- ① 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
- ② 選抜は，提出書類等，小論文及び面接・口述試験の結果により総合して行います。

4 出願期間

平成29年10月23日（月）～平成29年10月27日（金）

5 選抜期日

人間社会学域（人文学類，法学類，学校教育学類，地域創造学類，国際学類）：平成29年11月25日（土）

人間社会学域（経済学類）：平成29年11月25日（土）～平成29年11月26日（日）

理工学域：平成29年11月25日（土）

医薬保健学域（薬学類・創薬科学類，保健学類）：平成29年11月25日（土）

6 合格者発表

平成29年12月6日（水）

8

アドミッション・オフィス入試 (AO 入試)

1 出願資格, 選抜方法等

実施学域・ 学類等名	医薬保健学域 薬学類 創薬科学類
募集人員	薬学類(6年制) 3名, 創薬科学類(4年制) 6名 (それぞれ分けて募集します。)
出願資格	次の1から4のいずれかに該当し, 合格した場合は入学することを確約できる者で, 平成30年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者 3. 学校教育法施行規則第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 4. 学校教育法施行規則第150条第7号の規定により, 本学において, 個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で, 平成30年3月31日までに18歳に達するもの
出願要件	次のすべてを満たす者 1. 学業成績が優秀で, 人物的に優れ, 大学入試センター試験(1000点満点)の得点が750点(75%)以上の者 2. 本学大学院(薬学専攻博士課程又は創薬科学専攻博士後期課程)までの一貫した教育を受け, 博士の学位を取得し, 薬学教育・研究者や創薬研究者を志す者 大学入試センター試験で課す教科・科目名 国 (国語) 100点 地歴 (世B, 日B, 地理B) } から1 公民 (倫・政経) } 100点 数 (数I・数A)と (数II・数B, 簿, 情報から1) 300点 理 (物理と化学) 200点 外 (英 ^(注) , 独, 仏, 中, 韓から1) 300点 合計 1000点 [5教科7科目] (注) 大学入試センター試験の「英語」については, 外部試験のスコアの提出を認め, TOEFL-iBT: 45~68, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド: 3.0~6.0, GTEC-CBT: 820~1100, TEAP: 246~304の場合は, 大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を, 外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT: 68以上, IELTS(アカデミック・モジュール)バンド: 6.0以上, GTEC-CBT: 1100以上, TEAP: 304以上の場合は, 大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし, 大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。
選抜方法等	1. 選抜は, 第1次選考及び第2次選考により行います。 大学入試センター試験で本学類が課す教科・科目のすべてを受験しなければ, 失格となります。 2. 第1次選考 提出された調査書, その他の書類, 大学入試センター試験の得点により, 出願資格及び出願要件を満たしているか評価し, 志願者数が募集人員を大幅に上回る場合には, 募集人員の2倍程度になるよう選考します。 3. 第1次選考結果は, 平成30年2月1日(木)に本人あて通知します。 4. 第2次選考 第1次選考の合格者に対し, 小論文と面接による試験を実施し, 将来への高い目的意識とそこに向かう意欲・資質, 本質への探究心, 本学における学修意欲等について多方面から評価します。 ※配点 小論文 50点 面接 100点

2 出願期間

平成30年1月15日（月）～平成30年1月19日（金）

3 選抜期日

第2次選考：平成30年2月5日（月）

4 合格者発表

平成30年2月7日（水）

5 その他

(1) AO入試に合格しなかった場合の取扱い

AO入試に合格しなかった者のうち、一般入試（前期日程，後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で，所要の手続きにより一般入試（前期日程，後期日程）に出願を行った者に限り，一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程，後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

(2) 原則として，入学後の転学類を認めません。

(3) 大学入試センター試験について

① 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』の受験科目について，2科目受験している場合は，受験した科目のうち，第1解答科目の成績を利用します。なお，第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。

（『「地理歴史」「公民」』の試験時間において2科目を選択する場合，解答順に前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

② 「数学」の「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

③ 「英語」にはリスニングテストが含まれており，成績は筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し，他の外国語と比較できるようにして利用します。なお，リスニングテストが免除となる重度難聴者については，「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また，入学者選抜の配点にあたっては，センター試験の外国語の配点に換算します。

9 私費外国人留学生入試

1 募集人員

各学域学類とも若干名

2 出願資格

日本の国籍を有しない者（日本国の永住許可を得ている者を除く）で、次の（1）及び（2）に該当するもの

（1）次のいずれかに該当する者

- ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成30年（2018年）3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を授与された者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの
- ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得した者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの
- ④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得した者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの
- ⑤ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCE Aレベル）資格を取得した者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの
- ⑥ 外国において、国際的な評価団体（ウェスタン・アソシエーション・オブ・スクールズ・アンド・カレッジズ、アソシエーション・オブ・クリスチャン・スクールズ・インターナショナル又はカウンセル・オブ・インターナショナル・スクールズ）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を平成30年（2018年）3月までに修了した者及び修了者見込みの者で平成30年（2018年）3月31日までに18歳に達するもの

（2）独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成28年度（2016年度）又は平成29年度（2017年度）日本留学試験を受験した者（薬学類及び創薬科学類を除きます。）

注意事項

入学後は「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定める在留資格（原則として「留学」）の取得が必要です。「留学」以外の日本に長期で滞在できる在留資格でも入学・在学することはできますが、その場合、「留学」の在留資格を対象にした各種助成制度を利用できません。また、短期滞在ビザで大学に在籍し続けることはできません。

3 出願条件

- （1）保健学類検査技術科学専攻については、日本留学試験において、指定された科目を受験し、その合計点の得点率が60%を超えていること、並びに、TOEFLにおいて、得点率が60%を超えていること。
- （2）上記「2 出願資格（1）⑤」については、GCE Aレベル（General Certificate of Education, Advanced Level）試験において本学が指定する科目数や評価を満たしていることが必要です。出願に必要な科目数や評価については、金沢大学（入試情報）Webサイト（<http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/>）を確認してください。

4 入学者選抜方法等

大学入試センター試験を免除し、平成28年度（2016年度）又は平成29年度（2017年度）日本留学試験（薬学類及び創薬科学類を除く）、学力検査等の成績及び書類審査の結果を総合して日本人とは異なる基準により選抜します。

学力検査等の科目は、56ページのとおりです。

志望する学域学類等が課す日本留学試験及び個別学力検査等をすべて受験しなければ失格となります。

5 出願期間

人間社会学域, 医薬保健学域 平成30年 1月16日(火)～平成30年 1月19日(金)
理工学域 平成29年10月23日(月)～平成29年10月27日(金)

6 選抜期日

人間社会学域 平成30年 2月25日(日)
理工学域 平成29年11月25日(土)
医薬保健学域(医学類, 薬学類・創薬科学類) 平成30年 2月25日(日)～平成30年 2月26日(月)
医薬保健学域(保健学類) 平成30年 2月25日(日)

7 合格者発表

人間社会学域, 医薬保健学域 平成30年 3月 7日(水)
理工学域 平成29年12月 6日(水)

学域・学類等名		日本留学試験の利用する教科・科目等						英語能力	学力検査等			
		日本語	総合科目	数学	理 科					出題言語	利用試験 (注2参照)	
					物理	化学	生物					
人間社会学域	人文学類			◎ コース1又は コース2より 選択				日本語 又は 英語	6月 又は 11月	TOEFL	国語(国総)の内の現代文 面接	
	法学類	◎	◎					日本語			小論文と面接	
	経済学類											
	学校教育学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択 又は ◎ コース1又は コース2より 選択	◎	◎	◎	日本語 又は 英語	学力検査等で 外国語を課す。 (コ英II・コ英 III・英表I・ 英表II)	国語(国総) 数学(数I・数II・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 から1) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接		
	地域創造学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択				日本語	TOEFL	小論文と面接		
	国際学類											
理工学域	数物科学類	◎		◎ コース2	◎			日本語 又は 英語	6月 又は 11月	TOEFL	面接	
	物質化学類	◎		◎ コース2	◎	◎						
	機械工学類 フロンティア工学類(仮称) 電子情報通信学類(仮称)	◎		◎ コース2	◎	◎						
	地球社会基盤学類(仮称)	◎		◎ コース2	◎	◎						
	生命理工学類(仮称)	◎		◎ コース2	◎	◎	◎					2科目選択
医薬保健学域	医学類	◎		◎ コース2	◎	◎	◎	日本語	6月 又は 11月	TOEFL	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 面接	
	薬学類 創薬科学類			課さない							数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接	
	保健学類	看護学専攻										理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・英 表II) 面接
		放射線技術科学専攻	◎		◎ コース2	◎	◎	◎	日本語		6月 又は 11月	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 面接
		検査技術科学専攻										数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理, 化基・化学, 生基・ 生物から1) 面接
		理学療法学専攻										面接
作業療法学専攻										面接		

- (注) 1. ◎は必須科目, ○は選択科目を示します。
2. 日本留学試験は、平成28年度(2016年度)又は平成29年度(2017年度)の6月及び11月のいずれか1回の成績を利用します。
(ただし、理工学域においては、出願期間の関係上、平成29年度(2017年度)11月の成績は利用できません。)
3. 機械工学類、フロンティア工学類(仮称)、電子情報通信学類(仮称)の選抜は3学類一括で実施します。各学類への所属は2年進級時からとなります。
4. 医薬保健学域の薬学類(6年制)と創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。

10 障がいのある者等の出願

本学に入学を志願する者で、障がい等があり、受験及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、本学に事前相談書等を提出し、相談してください。

なお、体幹及び両上下肢の機能障害が著しく、本学の個別学力検査において、「代筆解答」を必要とする者は、下記の期限にかかわらず大学入試センター試験出願以前のできるだけ早い時期に本学へ相談してください。

1 相談締切日

推薦入試、帰国子女入試、国際バカロレア入試、AO入試、私費外国人留学生入試 平成29年10月10日（火）
一般入試 平成30年 1月12日（金）

2 提出書類

(1) 事前相談書（次の事項及び連絡先について記載したもの。様式は問いません。）

- ① 志願者氏名
- ② 志望学域学類等及び受験予定の入試区分
- ③ 障がいの種類・程度
- ④ 受験について配慮を希望する事項
- ⑤ 修学について配慮を希望する事項
- ⑥ 高等学校若しくは中等教育学校等でとられていた配慮
- ⑦ 日常生活の状況
- ⑧ その他参考となる事項

(2) 医師の診断書（上記③，④，⑤，⑦に関する項目も記載してください。）

(3) 大学入試センター試験の「受験上の配慮事項審査結果通知書」又は「受験上の配慮事項決定通知書」の写し（大学入試センター試験を受験した者で、受験上の配慮を認められた者のみ）

(4) その他参考書類（障害者手帳の写し等）

3 相談先

金沢大学学生部入試課入学試験係

住 所 〒920-1192 金沢市角間町

電 話 076-264-5169,5177～5179（平日午前9時から午後5時まで）

F A X 076-234-4042 E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp

11 学生募集要項の請求方法等

1 学生募集要項の請求方法

(1) 金沢大学Webサイトから資料請求をする場合

金沢大学Webサイトから直接、テレメールによる資料請求ができます。

詳しくは、金沢大学（入試情報）Webサイト（<http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/>）をご覧ください。

(2) テレメールで請求する場合（インターネット、自動音声応答電話）

① インターネット（パソコン・スマートフォン・携帯電話）又は自動音声応答電話をご利用ください。



インターネット（パソコン・スマートフォン・携帯電話）の場合		自動音声応答電話の場合	
http://telemail.jp		IP 電話	050 - 8601 - 0101 (24時間受付)
バーコード ※対応するスマートフォン・携帯電話で読み取れます			(一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。)

② 資料請求番号（6桁）を入力又はプッシュしてください。

（スマートフォン・携帯電話でバーコードを読み取りアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。）

資料名	資料請求番号	料金(送料含む)
大学案内	563022	250円
入学者選抜要項	583022	215円
入学者選抜要項+大学案内	563002	250円
一般入試学生募集要項	583002	250円
一般入試学生募集要項+大学案内	543002	300円
推薦入試, 帰国子女入試, 国際バカロレア入試, AO入試, 私費外国人留学生入試学生募集要項	583012	250円
推薦入試, 帰国子女入試, 国際バカロレア入試, AO入試, 私費外国人留学生入試学生募集要項+大学案内	543012	300円

③ ガイダンスに従ってお届け先を登録してください。

※ 資料請求終了時および受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。

※ 発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。

※ 資料は発送日の翌日・翌々日に届きます。夕方までの受付は当日発送となりますが、夕方以降は翌日発送となります。なお、お届け先が北海道の一部・沖縄・離島などの場合は3日以上かかります。

※ 随時発送の資料が1週間以上（予約受付の資料は発送開始日から2週間以上）経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。

※ 料金はお届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上、お支払いください。なお、支払い手数料が別途必要になります。（ケータイ払いは50円。クレジットカード払いは50円。コンビニ支払いは86円。ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円、窓口扱いは130円。複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。）

※ 自動音声応答電話によるご請求の場合、住所、名前の登録時は、ゆっくりはっきりとお話してください。登録された音声不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。

→ (1), (2) の請求方法についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター IP電話 050-8601-0102（午前9時30分から午後6時まで）

(3) 金沢大学へ直接請求する場合

郵送を希望する場合は、受信者の郵便番号、住所、氏名を明記し郵便切手を貼付した返信用封筒（角形2号約33cm×約24cm）を同封の上、封筒の表に「〇〇請求」と朱書きし、請求してください。（郵送を希望する資料名及び送料（郵便切手）は上記(2)-②を参照してください。）

2 学生募集要項の発表・配付予定時期

募集要項名	発表予定	配付予定
一般入試	平成29年10月下旬	平成29年11月上旬
推薦入試	平成29年9月下旬	平成29年9月下旬
帰国子女入試		
国際バカロレア入試		
A O 入試		
私費外国人留学生入試		

3 問い合わせ先

電話での問い合わせは、平日（月曜日～金曜日）午前9時から午後5時の間をお願いします。

(1) 入学試験関係

入学試験に関する問い合わせは、下記へ行ってください。

学生部入試課入学試験係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5169, 5177～5179 E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp	FAX 076-234-4042
-------------	---------------------	---	------------------

(2) 修学関係

入学後の授業あるいは学生生活に関する問い合わせは、下記へ行ってください。

志望学域・学類等		問い合わせ先		
人間社会学域	人文学類	人間社会系事務部 学生課教務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5553 5554 5556 5881 5886 5887
	法学類			
	経済学類			
	学校教育学類			
	地域創造学類			
	国際学類			
理工学域	数物科学類	理工系事務部 学生課教務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-234-6831
	物質化学類			
	機械工学類			
	フロンティア工学類(仮称)			
	電子情報通信学類(仮称)			
	地球社会基盤学類(仮称)			
	生命理工学類(仮称)			
医薬保健学域	医学類	医薬保健系事務部 学生課医学学務係	〒920-8640 金沢市宝町13番1号	電話 076-265-2125 2127
	薬学類	医薬保健系事務部 薬学・がん研 支援課薬学学務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-234-6827 6828
	創薬科学類			
	保健学類	医薬保健系事務部 学生課保健学務係	〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番80号	電話 076-265-2514 2515
文系後期一括 理系後期一括 (国際基幹教育院総合教育部)	学生部基幹教育支援課 基幹教育学務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5758	

※ 金沢大学携帯サイト

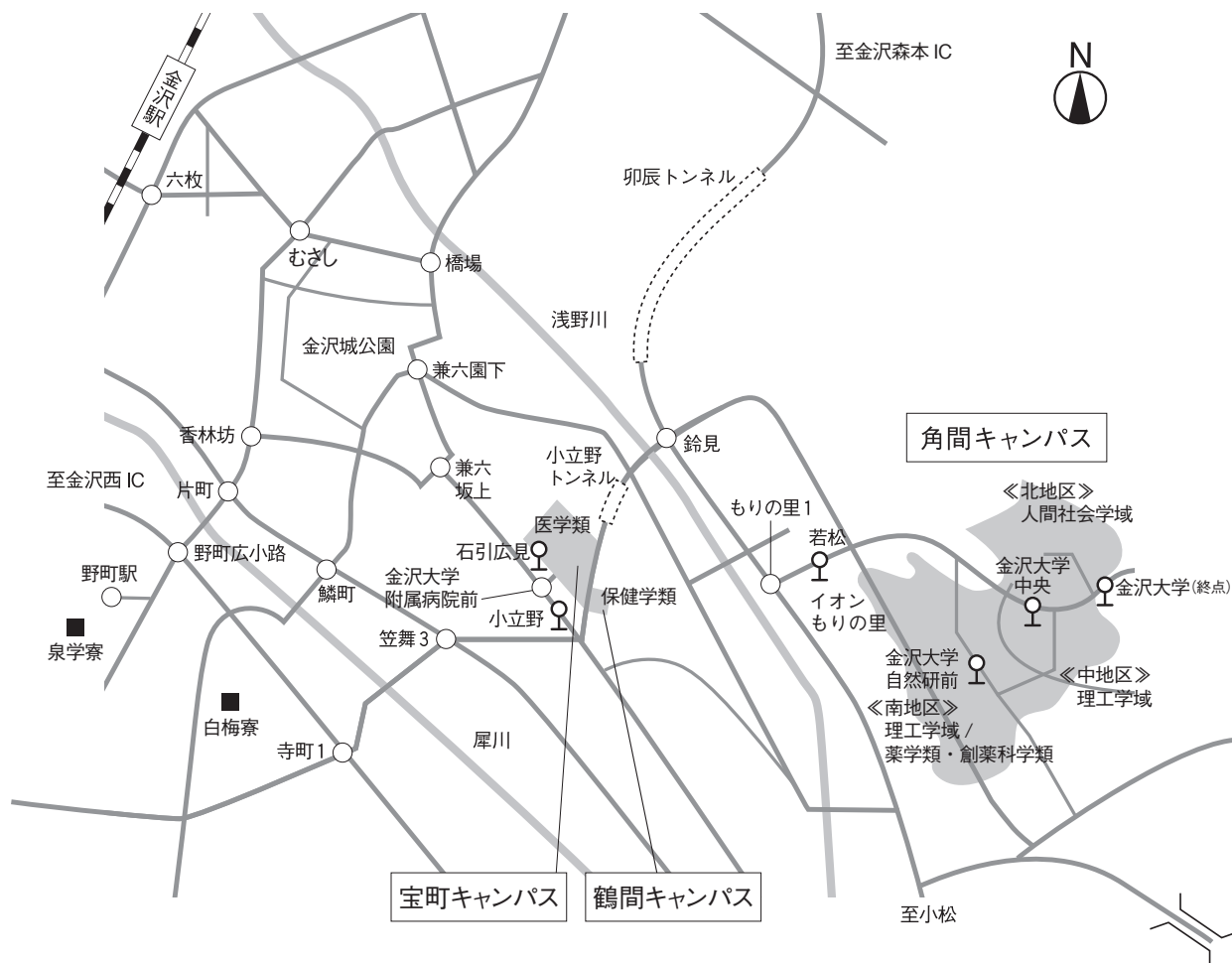
オープンキャンパス情報、各種入試情報などを携帯電話から閲覧できます。

以下のバーコードにアクセスしてください。



<http://daigakujc.jp/kanazawa-u/>

4 金沢大学所在地略図



キャンパス名		学 域 等	交 通 機 関
①	か く ま 間	事務局（学生部） 理工学域 医薬保健学域（薬学類・創薬科学類）	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学自然研前」下車 (JR金沢駅から約35分)
		人間社会学域	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学」終点下車 (JR金沢駅から約40分)
②	た か ら ま ち	医薬保健学域 (医学類)	JR金沢駅兼六園口（東口）又は金沢港口（西口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「湯涌温泉」「東部車庫（橋場町経由）」「北陸大学」「金沢学院大学（橋場町経由）」行きのいずれかに乗車
③	つ る ま 間	医薬保健学域 (保健学類)	「小立野」又は「石引広見」下車 (JR金沢駅から約20分)

(注) 乗り場のあるバスターミナルを事前に確認した上で、利用してください。



KANAZAWA UNIVERSITY

この要項を希望される方は、以下のバーコードにアクセスしてください。



金沢大学学生部入試課入学試験係

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5169,5177~5179
URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp>

